

大阪産業大学 デザイン工学部環境理工学科
設置の趣旨等を記載した書類

平成 28 (2016) 年 4 月

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
(1) 本学の沿革	
(2) 設置の必要性	
(3) 養成する人材像	
(4) 教育上の理念と具体的目標	
2. 学部・学科等の特色	3
(1) 機能と役割	
(2) 教育内容の特色	
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	8
(1) 学部の名称	
(2) 学科の名称	
(3) 学位の名称	
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	8
(1) 教育課程の編成の基本方針	
(2) 科目区分の設定及び科目構成とその理由	
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	11
(1) 教員配置の基本的考え方	
(2) 中核となる科目や必修科目における教員配置	
(3) 教員組織の研究分野と研究体制	
(4) 教員組織の年齢構成	
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	13
(1) 授業の方法、学生数、配当年次の設定	
(2) 卒業要件	
(3) 履修モデル	
(4) 履修科目の登録上限	
7. 施設、設備等の整備計画	18
(1) 校地、運動場の整備計画	
(2) 校舎等施設の整備計画	
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	
8. 入学者選抜の概要	19
(1) アドミッションポリシー	
(2) 選抜方法	

- (3) 選抜体制

9. 取得可能な資格	2 1
10. 実習の具体的計画	2 2
(1) 実習先の確保の状況	
(2) 実習先との契約内容	
(3) 実習水準の確保の方策	
(4) 実習先との連携体制	
(5) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）	
(6) 事前・事後における指導計画	
(7) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画	
(8) 実習施設における指導者の配置計画	
(9) 成績評価体制及び単位認定方法	
11. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	2 5
(1) 実習先の確保の状況	
(2) 実習先との連携体制	
(3) 成績評価体制及び単位認定方法	
12. 編入学定員を設定する場合の具体的計画	2 7
(1) 既修得単位の認定方法	
(2) 履修指導方法	
(3) 教育上の配慮等	
13. 管理運営	2 9
(1) 教授会の役割等	
(2) 教授会以外の管理運営機関の役割等	
14. 自己点検・評価	3 0
15. 情報の公表	3 0
16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	3 2
17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	3 2
(1) 教育課程内の取組について	
(2) 教育課程外の取組について	
(3) 適切な体制の整備について	

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 本学の沿革

本学は、大阪府大東市内において、昭和 40 年 4 月に大阪交通大学として開学以来、「偉大なる平凡人たれ」を建学の精神として、交通・産業教育に加えて、人間形成、創造性開発に重点を置いた人材育成を行う実学教育を旨として教育研究を実践することで発展を遂げてきた。現在、人間環境学部、経営学部、経済学部、デザイン工学部、工学部の 5 学部、人間環境学研究科、経営・流通学研究科、経済学研究科、工学研究科の 4 研究科を擁する総合的教育機関に発展してきた。開学 50 年の歴史を誇り、これまで 80,000 名を超える卒業生が社会の幅広い分野で活躍しているところである。

今般、新たに設置する「デザイン工学部環境理工学科」の基礎となる「人間環境学部生活環境学科」は、平成 13 年 4 月に「人間環境学部都市環境学科」として開設し、平成 20 年 4 月に現在の「人間環境学部生活環境学科」へと名称変更を行った。以来、課題解決のために暮らしを変える行動力や、マネジメント力のある、実践的な能力の養成を通して、よりよい人間環境や自然環境の形成や地球環境の保全に資する能力を修得させることを目的として、教育研究活動に邁進してきたが、デザイン工学部環境理工学科に改組することで、理学・工学の両面から自然環境を探求できる教育研究体制を大学として整えたいと考えている。

なお、平成 29 年度より、人間環境学部については発展的解消し、人間環境学部の 3 学科「文化コミュニケーション学科」「生活環境学科」「スポーツ健康学科」をそれぞれ、国際学部国際学科、デザイン工学部環境理工学科、スポーツ健康学部スポーツ健康学科へ改組する計画である。

(2) 設置の必要性

本学では、課題解決型（PBL）教育の推進、産官学連携の教育・研究の積極的な推進、更には、大学発ベンチャー活動等の教育への取り込み、地域に密着した地域・まちづくり研究と教育等、実学を重視した教育・研究を積極的に推進してきた。これらは、本学の教育の独自性となり、幅広い人間力育成のボトムアップ型教育を推進することにより、大阪産業大学の建学の精神である「偉大なる平凡人たれ」を基礎として「新しい産業社会の発展と人類の福祉に寄与できる世界的視野に立つ近代産業人の育成」を目的とした大学教育を推進してきた。

また、本学科が再編されるデザイン工学部は、システム・空間・環境を含む「モノ」づくりに関わるデザイン、及び、情報工学・建築工学・環境工学等に基づくエンジニアリング・デザインを追求することを研究教育上の目的としている。これらのモノづくりにおけるデザインの重要性及び社会的背景等を考慮して、2 学科を横断する共通の「ジョイントプログラム」を導入し、学生の「総合的知識力・技術力」を高めるだけでなく、課題解決に向けた幅広い視野を養成している。

一方、社会的背景においては、持続可能社会の実現が求められる中、我が国の高等教育の将来像として「高等教育の多様な機能と個性・特性の明確化」に関する指針が示され、工学教育効果の更なる向上に加えて、自然科学教育の重要性を目指した、新たな理念に基づく理工学教

育研究組織の構築が社会的要請として強く求められている。

(3) 養成する人材像

【デザイン工学部】

- ア. システム・空間・環境を含む広義の「モノ」づくりのためのデザイン、及び、情報工学・建築工学・理学と工学を融合した環境理工学等に基づくエンジニアリング・デザインに関わる学(学問体系)、術(技術的な知・方法)、技(身についた技術)、芸(構想力・創造力・表現力)について教育研究を行う。そして、デザイナー、デザイン・エンジニア、環境リサーチ、プランニング、環境サイエンスに基づいた環境保全に資する専門職業人の養成とともに、その素養を生かして広く社会で活躍する幅広い職業人を育成する。
- イ. ①システム・空間・環境を含む「モノ」づくりに関わるデザイン及び情報工学・建築工学・環境工学に基づくデザイナー及びエンジニアリング・デザイナーとしての能力を養う。②理学と工学を融合した環境理工学に立脚した、環境リサーチ、プランニング、環境保全に資する能力を養う。③自然、環境、人をつなぐ地域創成や自然科学分野の教育(人の育み)に資する能力を養う。④人間力とともに専門性と実践力に溢れた課題解決能力を養うことを目的とする。

【環境理工学科】

- ア. 本学科の前身である生活環境学科においては工学及び理学領域に立脚して、環境問題の課題解決能力を身につけた人材の育成に資する教育を推進してきた。本学科においてもこれら2つの学問領域を継承しながら、実践的な科目をより多く配置するとともに、基礎理学を踏まえた環境学を学ぶなかで、多様化する現代の環境問題の課題解決に貢献しうる人間力に卓越する環境リーダーの育成をめざす。また、行政やNPO 法人と連携するなど、地域での課題解決型カリキュラム(PBL)を盛り込み、学生の間力と地域力を高めるカリキュラムを配置し、実践科目と理論科目をバランス良く配置することによって、環境問題解決型の行動力溢れる人材育成をめざす。
- イ. フィールド活動及び実験を積極的にカリキュラムに組み込み、理学(自然科学)と工学を融合した環境理工学に立脚しながら、学部が掲げるシステム・空間・環境を含む広義の「モノ」づくりのために、課題解決にむけた行動力と環境マネジメント力を発揮し、実践的な環境技能を養成することを教育の理念とし、①みどり豊かな地域環境と健全な生態系の保全、更には人間と地球にやさしいエコライフの実現に向けて、自然と共生する持続可能な社会をデザインするために、グローバルな環境問題からローカルな環境問題の解決に資する能力を養う。②教職理科の教員養成においては、フィールド演習や実験・演習をカリキュラムに配置することによって、実習・実験に強く、問題解決能力に優れた理科教員を養成する。③科学技術による水、大気及び土壌環境の保全・環境改善、地球環境科学の究明、生物多様性と健全な生態系の保全、持続可能な社会のしくみづくりを考究し、工学及び理学に立脚した環境学の体系を総合的に教育研究する。

(4) 教育上の理念と具体的目標

デザイン工学部は、システム・空間・環境を含む「モノ」づくりに関わるデザイン、及び、情報工学・建築工学・環境工学等に基づくエンジニアリング・デザインを追求することを研究教育上の目的とし、学部一貫教育では、総合教育科目に加え、フィールド教育科目（フィールドプラクティスとフィールド関連教養科目）と専門教育科目が互いに有機的に連関しているだけでなく、4年間を通じた実践的教育課程とキャリア関連教育課程を導入している。

本学科では、これらに入門ゼミやキャリア教育を1年次から設定し、入学した学生の能力を1年次から4年次まで連続的に、専門教育と連動する教育課程をとるとともに、3年次から4コースにわけて、とくに環境技術コースでは工学と理学の融合を、地域生態系コースではフィールドワーク科目を数多く設置することによって、自然科学に立脚しながら、自然探究型カリキュラムを実現している。環境緑化コースにおいては、応用工学による緑豊かな地域環境の実現を、環境計画コースでは社会基盤を形成するための工学と社会科学を融合した講義及び演習を置くことによって、本学科がめざす「理学と工学の専門知識に立脚した、探究心あふれる課題解決能力に優れた環境マインドをもつ人材」を育成する教育課程を構築する。以下の通り、これらの講義科目は演習・実習科目と連動している。

専門教育とフィールド教育を連動させた課題解決型総合教育

- 1年次：実践的「フィールド教育」を導入し、問題意識の醸成を行う
(課題の認識→環境や自然に内在・顕在化している問題の発見)
- 2年次：問題解決基礎力
(→問題の分析／定式化→解決の方向)
- 3年次：地域で実践型問題解決力を養成
(→自然の探究能力及び環境の課題解決能力の育成／醸成)
- 4年次：より高度で専門的な問題解決力、自然探究・現代の環境に対する
課題解決への展開

以上の教育的視点に立ち、工学教育及び理学教育を礎とした専門的能力の育成を明確にする。デザイン工学部現有学科である「情報システム学科」と「建築・環境デザイン学科」に、本環境理工学科が加わり、教育・研究に邁進することにより、大阪産業大学の建学の精神である「偉大なる平凡人たれ」をもって「新しい産業社会の発展と人類の福祉に寄与できる世界的視野に立つ近代産業人の育成」を目的としている。

2. 学部・学科等の特色

(1) 機能と役割

本学では、工学部における「モノづくり教育」の多様化に伴い、これらの境界領域・学際領域を含めた工学部での教育研究が従来の6学科体制では対応が難しくなってきたことから、平成24年度にデザイン工学部を新設し、情報システム学科と建築・環境デザイン学科が工学部より移籍した。

工学が取り扱い、生み出す対象を「ハード・テクノロジー」分野、「ソフト・テクノロジー」

分野に区分し、工学部を両者のいずれかに重点をおく2つの学部に発展的に再編して、それぞれの特徴、役割をより明確化することにより、多様化した「スマートなモノづくり教育」に対する社会的要請に応えることが可能になって、工学教育研究の向上に繋がると考えられたわけである。こうしてデザイン工学部は、ソフト分野を重点的対象とする役割を担ってきた。

ところで、工学部での研究教育のアプローチには、大きく分けて、「分析的」と「総合的」との2つのアプローチがある。分析的アプローチにおいては、対象（モノ）の本質に迫ることを目指し、総合的アプローチにおいては、対象（モノ）を構成する要素を総合して、そのものを「つくる」ことを目指す。分析的アプローチにおいて用いられるのは、「エンジニアリング（サイエンス）」であり、総合的アプローチにおいては、「デザイン」（「設計」「計画」「造形」「意匠）」というプロセスが不可欠である。

このことを踏まえると、デザイン工学部において、必須要素的に重要である教育・研究対象は、デザイン（そのもの）とソフト分野におけるエンジニアリング・デザインであると言え、実際、システム・空間・環境を含む「モノ」づくりに関わるデザイン、及び、情報工学・建築工学・環境工学等に基づくエンジニアリング・デザインを追求することを研究教育上の目的としてきた。

この中で、激化する地球環境問題、少子高齢化・人口減少の進行、社会の成熟化等を受け、こうした中で必要となるのは、活力と魅力ある持続可能な社会への対応であり、物的環境のリ・デザインであるとして、それに関わる研究を遂行し、そのための人材を養成するような教育・研究機関として、建築・環境デザイン学科が位置づけられた。ここでは、都市・地域・環境から建築、インテリアにわたる生活環境・生活空間、及び、それらを構成する器物（クラフト製品）、製品（プロダクト）のデザインについて教育・研究するというかたちで、極めて幅広い分野が取り扱われてきた。

ただしここで用いられている「環境」及び「生活環境」の概念は更に幅広い。まず「環境」という語句は、「地球環境問題」をその端緒として用いられた経緯があるように、自然環境を含む概念として用いられてきたわけであり、「物的環境」にとどまらない。また「生活環境」は、都市・地域・生活空間における構造物と、これらによる利便を享受する人間活動にとどまらない。大気環境・水環境もその一部であり、自然環境もそうである。そして、人間活動がこうしたものとの強い連関を持って「系」として成り立っていることを前提とする必要がある。

実際、「教育面では、学科が取り扱うあらゆるデザイン分野において、“環境マインド”を保持し、“環境オリエンテッド”である学生を養成する。」と謳っており、「人」を取り巻く環境の全てが取り扱われなくては、その要求は満たされない。ここで、地球・自然環境、社会環境、地域環境、生活環境・情報環境等が、互いに連関し、一体不可分であると認知させ、サイエンスとテクノロジーの二大学領域に、政策学や経済学領域も含む社会科学までを採り入れての連携を具現化させた、総合的・学際的な教育・研究環境を整えることが必要とされる。

もとより本学では、こうした「環境」概念の広汎性にもとづき、「文化環境」分野や「心身環境」分野も包含して教育・研究対象とする人間環境学部を平成13年度に設立し、生活環境学科では、このうち、工学及び理学の基礎的理解に立脚したうえで、生活環境の変化が抱える問題に気づき、持続可能な社会を実現するために、状況を理解・分析し、課題解決のために暮らしを変える行動力や、マネジメント力のある、実践的な人材を養成する役割を担ってきた。

とくに近年、環境全般を扱う教育への社会的要請の更なる強まりを受け、環境をキーワードとしたデザイン及びエンジニアリング・デザインに関わる学科を集約し、学部として扱う「環境」概念を深化させ、特に理学（サイエンス）領域が加わることで、より学際的な教育・研究の効果を高めることによって、社会的要請に応える機能を果たし得るとの判断から、今回の改組に至った。

言い換えれば、「環境」を扱うために、建築・環境デザイン学科と環境理工学科がその対象範囲とアプローチを相互補完でき、扱うべき対象の広範さをカバーできる体制を構築しようとしている。例えば「環境工学」はデザイン工学部の教育・研究対象として謳われているが、環境の大きな部分を占める自然に対する理解及び専門的視点が欠如しているため、この分野の充足にもつながることの意義は大きい。

すなわち、環境理工学科は、学問領域的には、環境問題に対する分析的アプローチに必要とされるサイエンス分野の研究・教育領域を加えることで、対象の本質により迫ったうえで総合的アプローチとしての「ものづくりデザイン」をより幅広い視野に立った総合的な考慮に基づくものとするができる。対象分野としては、水、大気、生物、生態系、宇宙をも含む自然環境領域が加わることで、これらを含めた「環境」に関する「デザイン」、すなわち、課題解決を目的とする「モノ」の設計・計画を、デザイン工学部での教育・研究として担うことができる役割を果たすことができる。

このことは、情報システム学科も含めたデザイン工学部が追求する対象、すなわち、「モノ」づくりに関わるデザイン、及び、エンジニアリング・デザインが、単にモノをつくれればよいとの発想に陥ることなく、自然のシステムを包括し、綿密な分析や解析を基盤とするサイエンスの発想を取り込むことによって新しい価値を吹き込む役割を果たすことになる。と同時に、基礎科学から応用展開への流れも生み出すことで、本学科は「ジョイント役」としての機能も果たすことができる。

「デザイン工学」専門領域をより融合的なものとし、特色ある学際領域の存在をより際立たせることが可能となる。サイエンスとテクノロジーの有機的な連携が社会的にも重要視されているなかで、まさに機を得た学科再編成であると考えられる。

このように、環境理工学科をデザイン工学部の一翼を担う形態とすることは、「高等教育の多様な機能と個性・特性の明確化」に関する指針をふまえ、社会的背景の変化の中で、強い社会的要請を受けて、工学教育及び理学教育の効果の更なる向上を目指した、理工学研究組織の構築をより強固に進めようとする取り組みの一環であると位置づけられる。

(2) 教育内容の特色

「魅力ある学びの場の提供」を基本的理念として、専門性と総合性を兼ね備えた、また多様なアプローチを学ばせようとするのが、本学科の教育の特色である。

① 総合力と専門力を得る教育

環境に関わる取り組みを行おうとするならば、その主体は、個別の専門分野に関わらず、人間とその生活ならびに環境全般に対する理解と配慮をバックグラウンドとして、環境全般に関わる総合的な視野と幅広い知識・素養を基礎としながら構想・提言できることが求められる。

言い換えれば、個別専門分野の技術者であるだけでなく、環境に関わる「エンジニアリング・デザイン」を行う立場に立てるだけの知識・能力を持つ必要がある。

本学科では、幅広い分野における教育を行うために、環境工学、生態学、緑化学、社会学等多分野の専門知識を有する教員を揃え、学科目構成も多岐にわたるものとなっている。しかしながら1・2年次においては全ての分野の基礎知識と相互に連携する横断的な学びを可能にしており、総合的・包括的な知識を獲得することができるカリキュラム構成としている。3年次に後述するコースに配属された後に、各々の専門分野にわかれて、技術者、あるいは地域の環境リーダーとしての養成教育を受けることになる。

更に、理科教育分野については、1年次からフィールド及び実験に強い中等学校及び高等学校の理科教員をめざす学生にとっても、スムーズな単位取得が可能なカリキュラム構成が工夫されている。

講義科目によって知識やスキルを獲得すると同時に、演習・実験科目において、環境に関わる項目の実体験と、実践的な課題解決能力を得ることができる点が、本学科の強みでもある。

このように、本学科では「環境」という広範な対象に関し、理学的学びと融合させながら、総合力と専門力、知識・スキルと実践力を兼ね備えた人材育成を目指すことが教育内容の特色となる。

② 多様な単線教育のための4つのコース

学科の最大の特色は、4つの専門コース（「環境技術コース」「地域生態系コース」「環境緑化コース」「環境計画コース」）制をとることにある。「共通基礎概念」と「共通基礎技術」が両翼にあって、4つの専門コースを相互に結びつけている。そうして、学科が一体となって環境をテーマとするエンジニアリング・デザインを目指すという理念が原動力となって、個別の専門コース教育（単線教育）を駆動する。

各コースもまた、それぞれに教育内容の特色を持つ。

「環境技術コース」では、私たちが生きていくために必要不可欠な人間を取り巻く地球環境（水、大気、土壌）について保全する方策や技術を養う。

「地域生態系コース」では、地域の自然を対象として、植物及び動物の生態を調査・解析するとともに、それらを保全するために計画・行動する力を養う。

「環境緑化コース」では、生態系を考えた緑地の計画・設計・施工までを緑化学的に扱う「緑」のスペシャリストを育成する。

「環境計画コース」では、環境にやさしいまちをデザインするためのソフト工学と、環境共生社会を創造するためのしくみを学ぶ。

③ フィールド活動及び実験の積極的な配置

4年間を通してフィールド活動及び実験を重視したカリキュラムを構成し、課題解決に向けた行動力と環境マネジメント力を獲得し、実践的な環境技能を得させることを目指す。

学部共通科目としては、1年次の「フィールドプラクティス」において問題意識の醸成を目指し、2年次の「フィールドスタジオ演習」においては問題解決のための基礎力を、各コースのアプローチにしたがい身につける。このことは、フィールド関連教養科目についても同様

である。そして、コース配属後は、それぞれのコースの設定課題に対する問題解決力を、コースが提供する演習科目において獲得する。

④ 地域・社会連携と PBL

環境に関する課題は、それぞれの地域にすべからく存在する。そこで、上記のフィールド活動及び実験に際しては、行政や NPO と連携するなど、地域での課題解決型カリキュラム (PBL) を積極的に採り入れる。これは、現場や現象の「実物体験」を狙った試みでもある。

また教育・研究の成果は、地域との産官学連携においても積極的に活用する。本学は、日本のものづくり・産業の基盤を形成している東部大阪地域に位置する。そうした立地特性を活かし、産官学の連携に基づく、「環境に配慮したものづくりデザイン」をキーワードに展開する。

本学科は、大東市をはじめとするまちづくりにも取り組んできた実績があり、新しい学部・学科体制においても、こうした産官学連携の更なる展開を図っていく。

⑤ 他学科との連携

デザイン工学部の既存の 2 学科では、学部の基本理念に基づき、「設計」「意匠」「造形」「計画」と密接に関わった 2 学科を横断する、“デザイン”を基軸とした共通教育プログラムである「ジョイントプログラム」が導入されている。本学科もこれに参画することで、個別デザイン分野のみでなく、複数のデザイン分野、工学分野にわたる教育・トレーニング、すなわち、複線的デザイン工学教育を受けることができる仕組みを更に発展させる。これは本学科の学生に対するメリットのみならず、既存の 2 学科の学生にとっての選択肢の拡大に繋がる。これにより、学生の「総合的知識力・技術力」を高めるだけでなく、課題解決に向けた幅広い視野を獲得させる特色ある教育を実施する。

⑥ プレゼンテーション・スキル

プレゼンテーション・スキルを重視し、GIS/CAD に習熟させ、その専門技術者 (オペレータ) たることも可能とする。コミュニケーション能力については、特に実習の際のデザイン・コミュニケーション力の涵養に努め、課題終了時の「提示プレゼンテーション」を重要な機会として位置づける。卒業研究については、これまでも卒業研究発表会を開催しているが、これは、最終にして最大のプレゼンテーションの機会である。

⑦ コラボレーション能力

学生の学びに対する意欲を高め、社会人基礎力を付けさせるためには、自らの殻の中で学ぶばかりでなく、「共に学ぶ」「教える」ことや「協働 (コラボレーション)」に参画することが効果的である。そこで、「学習・教育体制」の中に学生を「巻き込む (インボルヴィング)」システムをつくるべく、以下を実施・計画中である。〈1〉コラボレーションによる実習課題を設定する、〈2〉卒業研究に下級生が参加・協力する体制をつくる、〈3〉GIS/CAD についてはソフトマニュアル (FAQ 付き) を作成し、演習室やワークルームに常備、それを見ることによって上級生が、下級生に教えることが出来るようにする (学生間に知識の

上下関係が成り立つことを目指す)。〈4〉ゼミ生等に授業補助をさせることにより社会人基礎力を付けさせる、などである。

⑧ 学生の資質と教育

学習者の立場に立つての教育という点で、問題となるのは、2 極分化した学生層、すなわち、意欲的で、(潜在)能力もある学生群(A 群と呼ぶ)、学習意欲・能力という物差しで測ることに馴染まない、大学教育体制に入りきれない学生群(B 群)の存在である。我が大学の実情に鑑みれば、両群の学生層を受け入れざるを得ないと考えられ、極端な場合は、教育困難クラスの出現という事態さえ考える必要があるだろう。これは、両群それぞれの学生にとって問題であり、能力別クラス編成、ピア・チューター制等、この対策を積極的に行う。

⑨ 教育の特色・まとめ

以上、本学科の教育は、PBL(実習・演習等による Practice Based Learning)を軸とする具体的・実地的な「ものづくり」を通じた、「ひとづくり」である。それは、エンジニアリング・デザインを通じて、環境課題とものづくり(技術)との融合を図り、「環境の豊かさ」への想いをベースに「技術」と「知識・スキル」を兼ね備えた人材を育成することである。なかでも、理科教員養成においては、本学科の特徴を生かして、自然を含む環境を自然科学を基盤としながら、実験及びフィールドに強い実践型の理科教員を養成し、社会的要求に応えられるバランスのよい人材育成をはかる。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

近年、地球及び地域レベルで環境問題は複雑化かつ増大しており、将来にわたる人間の健全な環境の保全において科学技術系人材の育成、更には生涯にわたって科学に対する関心を持ち続ける教育が強く求められている。豊かな自然環境と調和する人間社会の実現に向けて、理学と工学を融合した環境理工学に基づき、環境問題の課題解決にむけた行動力と環境マネジメント力を発揮できる、環境を保全する技術と能力を養うとともに、自然科学を探究し、主体的に課題解決する柔軟な思考力を培うことをめざしている。更に現代社会が必要とする環境学の体系を総合的・統合的に教育し、人間力を育み、次代を担う科学技術系人材の育成を教育の理念とし、以下の通りの名称とした。

- (1) 学部の名称 : デザイン工学部 [Faculty of Design Technology]
- (2) 学科の名称 : 環境理工学科 [Department of Environmental Science and Technology]
- (3) 学位の名称 : 学士(理工学) [Bachelor of Science and Technology]

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程の編成の基本方針

本学科において教育方針の核をなすのは、自然環境の科学的理解を図る理学と、個別具体的な環境問題の解決を目指す工学の環境学的な融合である。教育課程においては、フィールド活動と実験の積極的な導入によって、実践的な技能を養成する。これらを軸にして、学科の主旨及び特色の項で述べた「総合力と専門力」「問題解決能力」「プレゼンテーション・ス

キル」「コラボレーション能力」を養成していく。

その理念に基づく教育を実現するため、現代社会が考求すべき環境学をベースとして、学年ごとの習熟度に対応して教育をおこなう学部一貫教育型の教育編成によって年次間の有機的連携を重視している。入学後、まず環境問題の全体像の把握、環境学の総合的な理解、そして基礎的なサイエンスの素養を修得させることに注力する。そして学年が進むにつれて専門性を高めていく。学年ごとの具体的な学習目標は以下のようになっている。

- ・1年次：問題発見力、理工学の基礎的素養を身につける。実践的なフィールド教育を導入し、環境問題の課題を認識し、問題意識を醸成させる。また、基礎的な学習技術や自己管理能力を会得する。
- ・2年次：問題解決基礎力を身につける。この年次以降は実践的能力の育成に重点を置いた履修を通じて、専門性の向上と社会的実践力の定着を目指す。
- ・3年次：専門的な問題解決力を養い、理工的思考からの創造力、構成力を高める。
- ・4年次：より高度で専門的な問題解決力を身につけ、卒業研究を通して理工的思考からの課題解決への展開を目指す。

本学科では、個別具体的な環境問題の解決に関する教育を充実させるため、コース分けを行う。学生は3年次に「環境技術」「地域生態系」「環境緑化」「環境計画」の4コースに分かれて研究室配属となり、各コースの専門的な科目を中心に履修することになる。そして4年次には卒業研究において教育の完成を目指す。

ただし、環境問題に対する学際的なアプローチの必要性を考慮し、コースの専門的内容に特化した科目だけでなく、他のコース科目も横断的に学び、幅広い知識と総合力も高めることのできるカリキュラムとする。

(2) 科目区分の設定及び科目構成とその理由

①「フィールド教育科目」、②「総合教育科目」③「専門教育科目」④「実践教育科目」の4つに科目区分し、学年別に各科目を効果的に配置する。(1)に述べた基本方針にもとづき、①と②は1・2年次、③は1～4年次、④は1～3年次にバランスよく科目を設けていく。本学科ではとくに、従来型教育の②と③に加え、①と④を新たに設け、教育方針に沿った教育の充実を図る。①はデザイン工学部独自の共通科目区分であり、総合的な教養教育と専門教育を有機的に連携させることを目的とする。④は、卒業後の環境に関するキャリアに向けた職業意識、社会人としての知識・技術を段階的に高めるために本学科独自で設けた区分である。

各科目区分の科目構成については、以下のようになっている。

① フィールド教育科目

「フィールドプラクティス」とフィールド関連教養科目からなる。「フィールドプラクティス1」(前期)は必修・週4コマで1年次の中心的科目となっている。年次の早い段階から本格的なフィールド活動をおこない、問題解決、発表、協働といったスキルの基本的素養を身につけさせるとともに、環境問題への意識を醸成させる。問題意識の高い学生には選択科目「フィールドプラクティス2」も履修させ、主体的な環境リーダーへの志向性を高める。フィールド関連教養科目は、早い段階から環境問題とそのアプローチの最先端に触れさせるべく、各教

員の研究紹介や議論を通して、現在起こっている環境問題とその対策の実際を分かりやすく講義し、環境問題に対して主体的に思考していく意欲と知識的な素地を高める科目である。3年次に分かれる各コースの専門分野の内容を把握させることも意図している。これらの講義科目は必修選択とし、複数の分野を履修する単位設定としている。

② 総合教育科目

人文科学・社会科学・自然科学・学際領域・日本文化・人間教育、言語文化科目、身体科学科目の各科目群からなる。基本的な外国語活用の素養について必修とする以外は広い学問分野から選択して履修させるものとする。

③ 専門教育科目

専門教育科目では、環境学を総合的・統合的・調和的に理解するため、環境科学・自然科学に立脚した分野、更には水処理、緑化、環境測定等の応用分野の科目を厳選してバランスよく提供する。この科目区分は、基盤科目・発展科目・演習・実験・卒業研究から構成される。

基盤科目は、4つのコースの学修に共通な環境学の基礎的な内容を扱うものであり、サイエンスの素養を高めることを主たる目的としている。そのため、中学・高校理科の教員免許に必要な「教科に関する科目」の基礎理学に関する科目も多数配置している。1・2年次にこれらの科目を集中的に配置することで、4つの専門コースへ進む前に、全員が全コースの基礎的演習を一通り履修し、本学科の特色の一つである幅広い専門的素養の習得が目指される。本学科の高学年での学習に必要な環境学の知識・統計学的知識、コンピュータの文書作成・表計算アプリケーションの使用法の習得を目指す科目（環境学概論、データ分析入門、情報機器の操作）に関しては必修科目としている。

発展科目では、各コースの教育目的に沿って個別具体的な環境問題に関する教育を行う。コースの中心的な内容を扱う以下の科目はコース必修とし、それに加えて各専門に関わる内容の科目をコース別に選択必修科目とする。

- ・環境技術コース：「環境制御論」「原子力とエネルギー」
- ・地域生態系コース：「植生学と自然」「水生生物学」「生物多様性と文化」
- ・環境緑化コース：「ランドスケープ計画論」「緑化植物論」
- ・環境計画コース：「環境アセスメント」

演習科目では、必修科目として2年次前期・後期に「フィールドスタジオ演習」、3年次前期・後期に「環境理工学演習」を設ける。「フィールドスタジオ演習」では、環境問題に関する基礎的な調査方法を幅広く教育する。「環境理工学演習」では、コース別に分かれて専門的なフィールドワークの手法を扱う。また、コース共通としてGISの専門技能を直接習得させるGIS演習2科目を設けている。

実験科目は、理科教員免許の取得に関わる科目であるだけでなく、環境問題にアプローチするための幅広い理学的教養を身につけさせるための科目と位置付けており、基盤科目に並ぶ区分に位置付けている。

卒業研究科目は、3年次の「プレ卒研」、4年次の「卒業研究」からなり、学科教育の中心

及び総括をなす必修科目としている。3年次にコース配属がなされるとともに、研究室に配属することとなり、研究室内の教員・学生との共同作業によってフィールドワーク・実験を通じた研究へのアプローチを行い、卒業論文の作成を通して総合力を養成する。なお、本学科とデザイン工学部の他学科とは研究内容に関連が深いため、学生が研究室間を相互に乗り入れて学科横断的なテーマ・方法での研究を可能とする「ジョイント・プログラム」も実施する。

④ 実践教育科目

就職志向性や社会人としての能力の育成を目的としたものであり、キャリア関連科目からなる。1年次から3年次までを通じたキャリア教育を実施し、進路を意識した科目や資格講座等の提供を積極的に行う。また、表現技術として文章力やプレゼンテーション力の方法について、実社会での必要性に対応させた方法を学び、3年次には、企業が求めるより実践的なスキルを習得させる。

①～④の他、環境学の学際性に対応するため、学修上の必要に応じて他学科の科目8単位を自由科目として履修できることとしている。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員配置の基本的考え方

環境理工学科では、学科カリキュラムの特色である「環境技術」「地域生態系」「環境緑化」「環境計画」の4つの互いに連関したコースが対象とする分野の各々において、科学技術による水、大気及び土壌環境の保全・環境改善、地球環境科学の究明、生物多様性と健全な生態系の保全、持続可能な社会のしくみづくりを考究し、工学及び理学に立脚した環境学の体系を総合的に教育する教員を配置する必要がある。

実践的に学びながら、卒業時には複合的な環境領域のスペシャリストとしての自信をもてるようなカリキュラム構成を実現するため、18名の専任教員が各主担当コースを担当するように配置し、全コースから履修・取得可能な高等学校教諭一種免許状（理科）及び中学校教諭一種免許状（理科）を目指した教職科目を含み、各コース2～7名の担当者が主導して教育・指導を行う。

環境理工学科では、専任教員の年齢（開設年度）、職位、専門分野、主担当コース名は以下の表の通りであり、専任教員が各専門分野及び担当科目に関連するコースを担当するようにバランスよく配置している。

氏名	職位	専門分野	環境技術コース	地域生態系コース	環境緑化コース	環境計画コース
塚本 直幸	教授	都市公共施設計画				○
金澤 成保	教授	アジア都市、環境の親和性、戦略的都市計画				○
前迫(波戸岡)ゆり	教授	植生、植物生態、保全生態		○		
花田 眞理子	教授	環境経済・経営、環境教育、教育機関 EMS				○
吉川 耕司	教授	都市・交通計画、空間分析、GIS				○
濱崎 竜英	准教授	環境工学、環境分野の国際協力	○			
石原 肇	教授	地域環境政策、環境影響評価、応用地理				○
碓 隆太	准教授	放射線物理、地球環境、宇宙線	○			
田中(進藤)みさ子	准教授	都市・住環境計画、都市緑化			○	
茅原 弘毅	准教授	天文学、地球惑星科学	○			
鶴田 哲也	准教授	水生動物の生態、生態系保全		○		
堀越 亮	准教授	無機化学、科学教育	○			
井上 昭雄	准教授	天文学	○			
川田 美紀	准教授	歴史的環境保全、地域共同管理				○
佐藤 靖明	准教授	農業人類学、アフリカ地域研究		○		
花嶋(橋本)温子	講師	廃棄物、リサイクル計画				○
高浪 龍平	講師	水環境リスクの制御・モニタリング	○			
岡田 準人	講師	都市緑化、ランドスケープ、園芸			○	

(2) 中核となる科目や必修科目における教員配置

本学科の中核・必修科目（専門教育科目）には、環境学を総合的・統合的・調和的に理解するため、環境科学及び自然科学に立脚した分野、水処理、緑化、環境測定、システム分析等の応用科目をバランスよく提供し、PBL(Practice Based Learning、実践ベース科目)を導入した演習によって、実践的な環境技能と環境デザイン力を養成する。コースとしての特徴を發揮しながら、各科目群の有機的連関を保つような科目内容を構成し、演習科目では、段階的訓練、習熟レベルに留意した年次間の有機的連関を重視し、演習による基礎的な学習技術や自己管理能力の習得に続いて、2年次以降は実践的能力の育成に重点を置いた演習や卒業研究等の履修を通じて、専門性と人間性の定着を目指す。また全学年を通じてキャリア教育を実施し、就職力や社会人としての能力の育成を意識した科目や資格講座等の提供を積極的に行う。

以上の特色を有した科目群を担当し、フィールド活動及び科学実験を通して、課題解決に向けた行動力やマネジメント力を發揮し、実践的な環境技能を養成しうる教員配置とし、各コースの予定教員数、保有学位は以下となり、十分な研究業績のみならず、官民での企業・行政経験含め多彩で実践的な業績を有している。

① 環境技術コース：6名

博士（人間環境学）、博士（理学）、博士（工学）

② 地域生態系コース：3名

学術博士、博士（水産学）、博士（地域研究）

③ 環境緑化コース：2名

博士（工学）、博士（学術）

④ 環境計画コース：7名

博士（工学）、Ph.D（都市・地域計画）、Master of Arts、博士（地理学）、博士（人間科学）、工学修士

環境理工学科全体としては以下の通りである。

博士（工学）・工学修士 5名、博士（理学）4名、学術博士 1名、博士（学術）1名、博士（人間環境学）、博士（水産学）、博士（地域研究）、Ph.D（都市・地域計画）、Master of Arts、博士（地理学）、博士（人間科学）各 1名であり、理・工研究領域を中心にバランスの取れた構成となっている。

(3) 教員組織の研究分野と研究体制

本学科の特色として、既存の学問領域において、分野横断的な教員構成となっていることがあげられる。環境学は複合的なアプローチを結集して複雑系である環境問題に対処しようとする学問であり、学科の特色を活かして総合的・多面的なスキルを活かした分野横断・分野境界領域に挑戦可能な研究体制となる。一方、既存の情報システム学科及び建築・環境デザイン学科に、環境理工学科が加わることにより、学科横断のジョイント・プログラムによる全く新しい共同研究の進展も期待される。加えて、キャリア・プランニングに対し、官民での企業・行政経験含め多彩で実践的な業績を有した教員を配置している。

(4) 教員組織の年齢構成

環境理工学科では、当該学科開設後、本学の就業規則（学校法人大阪産業大学大阪産業大学職員就業規則 第 38 条）〔資料①〕に沿って学年進行期間中に教授 2 名が定年退職することになるが、退職後においても、学科全体では、大学設置基準に定められた教員数 9 名を上回った体制を維持している。また学科内の昇任人事及び退職に伴い、理学分野を専門としている教員の補充を予定しており、大学設置基準に定められた教授の人数もクリアする計画となっている。そのため教員構成ならびに年齢構成についても特に問題はない。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業の方法、学生数、配当年次の設定

① 授業の方法及び履修指導方法

フィールド活動及び実験を積極的にカリキュラムに組み込み、理学と工学を融合した環境理工学に基づき、環境学を学ぶ中で、多様化する現代の環境問題の課題解決に貢献しうる人材を育成する。また、地域での課題解決型カリキュラム（PBL）を盛り込み、学生の間力と地域力を高める演習科目と講義科目を配置し、環境問題解決型の行動力あふれる人材を育成する。

1、2年次は基礎的専門教育を行い、3、4年次より 4 つのコース（環境技術コース、地域生態

系コース、環境緑化コース、環境計画コース)に分かれ、コース別の専門教育を行う。

教育課程は、学部一貫教育の観点から、「総合教育科目」と「専門教育科目」に加えて、「フィールド教育科目」を開設する。基礎的及び幅広い教養を身につける「総合教育科目」に加え、「フィールド教育科目」では、環境学を学ぶ上で必要な基礎的知識と技術を習得し、4コースのコース選択の動機づけとする。また、「専門教育科目」では、環境理工学科に共通した基礎科目である環境学系科目、統計系科目、及びコンピュータ系科目を「基盤科目」とし、その他は「発展科目」「演習」「実験」、及び「卒業研究」に大別される。更に、理科教員を志す学生に対しては、教職に関する科目に加え、実験や実習に強い教員の養成を行うための科目も開講する。専門技術を活かす社会人力養成のための科目を「キャリア関連科目」として、コースに関わらず修得すべき科目として開設する。

履修指導については、各学年の初めに履修指導を行う。また、1回生については入学直後に学科教員が修学アドバイザーとなり、教員全員がそれぞれの担当学生を対象に「入門ゼミ1」及び「入門ゼミ2」を行うことによって履修指導を行う。

② 配当年次の設定

[1回生]

「フィールド教育科目」は、環境理工学の分野に興味を持って入学してきた学生に対して、環境のフィールドから環境問題を学び、問題の解決法をデザインすることへの興味を抱くことで、環境学を学ぶ基礎的な知識と技術を「フィールドプラクティス」を通して身につける。また、「フィールド関連教養科目」を通じて、各コースの初歩的な学問を学ぶことで、専門分野への動機づけを行う。

「総合教育科目」では、社会人としての広く一般的な教養を身につけるために「教養教育科目」を履修し、広く国際的な素養を身につけるために、「英語」を中心に「言語文化科目」を学習させる。

「専門教育科目」では、「基盤科目」の「環境学概論」において、本学科の学びの基盤となる環境学の基礎的な知識を体系的かつ網羅的に学ぶ。また、本学科の専門科目を学ぶ上で必要不可欠な統計的素養を身につけるための「データ分析入門1・2」やコンピュータの基礎的スキルを身につける「情報機器の操作1・2」を開講する。

「キャリア関連科目」では、「入門ゼミ1・2」を通じて修学アドバイザーとともに初年次教育に取り組むとともに、資格取得に意欲のある学生向けに「環境資格対策1・2」を開講する。

1年次の履修指導は学年の初めに学科独自の履修ガイダンスを行い、学科教員が修学アドバイザーとなって履修指導を行う。また、この修学アドバイザーは在学中の修学に関する相談者となる。

[2回生]

「フィールド教育科目」では、「環境問題へのアプローチ」を通して4コースの横断的な学びから特定の環境問題に対して様々アプローチから取り組む視点を身につける。

「総合教育科目」の「言語文化科目」では、より高度な英語教育を行い、国際的に活躍できる人材の育成を目指す。

「専門教育科目」では、環境学を学ぶ上で基礎となる「環境と物理学」や「生態学」等の専門科目を「基盤科目」で学び、「発展科目」では、各コースの学びの基礎となる「植生管理とビオトープ」や「緑の環境工学」、「都市・交通計画論」等の応用科目を学ぶ。

「演習」では、本学科の学びの特徴であるフィールドから各コースの専門分野の基礎的知識と技術を学ぶ「フィールドスタジオ演習 1・2」を開講し、また宿泊型フィールド演習の「生物学特別演習 1・2」やスキル演習の「CAD 演習 1・2」を開講する。

「実験」では、主に教職免許取得を目指す学生向けに「生物学実験」や「地学実験」を開講する。

「キャリア関連科目」では、「キャリアデザイン 1・2」において 2 回生から社会人として必要な素養やスキルを身につけ、進路選択を意識づけさせる。

2 年次の履修指導は、学年の初めに学科独自の履修ガイダンスを行い、学生の単位修得状況を把握しながら 3 年次のコース選択も見据えながら履修指導を行う。

[3 回生]

コース配属

「専門教育科目」の「発展科目」として、各コースに配属された学生はコース内専門科目を履修することで専門性を深めるとともに、他分野の専門科目を横断的に学ぶことで総合的に環境理工学の分野の素養を身につける。

また、専門教育では、「発展科目」及び「演習」において各コースに分かれ、フィールドにおけるより応用的な専門演習である「環境理工学演習 1・2」が始まる。また、各コースの専門性をより深めるための各種演習として、「生物資源活用演習」や「緑化施工演習」、「環境計画フィールド演習 2」が開講される。

「卒業研究」の入り口として、「プレ卒研」において各研究室に配属され、卒業研究の導入的な学びを行う。

「キャリア関連科目」では、より進路が明確になった学生に対して、「特別演習 1・2」を通して就職等の将来の進路にとって必要な各種スキルを身につける支援を行う。

3 年次の履修指導は、学年の初めに学科独自の履修ガイダンスを行い、学生の単位修得状況を把握しながら卒業研究の配属要件を満たせるように履修指導を行う。

[4 回生]

「専門教育科目」の「発展科目」及び「演習」では、ゼミ研究室に配属された学生が自身の研究テーマをより深めるための専門的知識を身につける。

「卒業研究」では、各コースにおいて 4 年次までに学んだ専門的知識と技術を用いて、自身が選んだ研究テーマについて卒業研究に取り組む。

4 年次の履修指導は、学年の初めに学科独自の履修ガイダンスを行い、学生の単位修得状況を把握しながら卒業を目指した履修指導を行う。

(ウ) 講義科目及び演習科目の学生数について

入学定員 80 名に対し、各コース 20 名程度を目安として、学生は 4 コースのいずれかのコ

ースに配属される。学科共通の講義科目及び演習科目については、最大でも 80 名程度の履修者数となり、特に演習科目では学生を複数の小グループに分けて複数教員で担当することから、少人数制で授業を支障なく運営することができる。また、各コースの講義科目及び演習科目については、最大でも 20 名程度の履修者数となる予定であり、少人数の学生に対してきめ細やかな教育を行うことができる。

(2) 卒業要件

- イ 在学中に 124 単位を修得しなければならない。
- ロ フィールド教育科目は、必修、選択を合わせて 12 単位以上とする。
- ハ 総合教育科目は、教養教育科目分野、言語文化科目分野の英語より 4 単位以上及び身体科学科目分野を合わせて、20 単位以上とする。
 なお、留学生は、教養教育科目分野の留学生用科目より 4 単位及び言語文化科目分野の日本語より 8 単位を合わせて 12 単位以上とし、英語の単位を修得しなくてもよい。
- ニ 専門教育科目は、必修、選択を合わせて、86 単位以上とする。
- ホ 実践教育科目は、必修、選択を合わせて、6 単位以上とする。
- ヘ 他学部及び他学科の専門教育科目の内より、製図、演習、実験、実習、外国書講読、卒業研究を除き、30 単位まで履修することができ、そのうち 8 単位までを当該学科の専門教育科目の選択科目として卒業要件単位に組み入れることができる（これを自由科目と称する。）。
- ト ジョイント・プログラム履修学生については、4 年次に他学科の卒業研究等を履修できるが、詳細については、別途定める。

フィールド教育科目	フィールドプラクティス	2 単位	12 単位以上	124 単位	学士（理工学）
	フィールド関連教養科目	要件なし			
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	要件なし		
		社会科学	要件なし		
		自然科学	要件なし		
		学際領域	要件なし		
		日本文化	(留学生に限る。) 4 単位		
	人間教育	要件なし			
	言語文化科目	英語	(留学生を除く。) 4 単位以上		
初修外国語		要件なし			
	日本語	(留学生に限る。) 8 単位			
	身体科学科目	要件なし			
専門教育科目		必修、選択の単位を合わせて、86 単位以上 (自由科目 8 単位を含む)			
実践教育科目		6 単位以上			
4 年 以 上 在 学					

注)

- ① 1 年次配当の英語については、プレイスメントテストを実施し、その結果に基づいて習熟度別にクラスを分ける。但し、英語の 2 年次及び 3 年次配当科目については、この限りではない。

- ② 初修外国語は、ドイツ語、フランス語、中国語から構成され、複数の言語を卒業要件単
位に算入することができる。ただし、各言語は必ず「入門 1」から履修しなければならない。
- ③ 留学生は、言語文化科目として母語を履修することはできない。
- ④ 環境技術コースの専門教育科目に関する卒業要件単位数は、必修科目 30 単位、選択科
目 56 単位以上、合計 86 単位以上とする。
- ⑤ 地域生態系コースの専門教育科目に関する卒業要件単位数は、必修科目 32 単位、選択
科目 54 単位以上、合計 86 単位以上とする。
- ⑥ 環境緑化コースの専門教育科目に関する卒業要件単位数は、必修科目 28 単位、選択科
目 58 単位以上、合計 86 単位以上とする。
- ⑦ 環境計画コースの専門教育科目に関する卒業要件単位数は、必修科目 28 単位、選択科
目 58 単位以上、合計 86 単位以上とする。
- ⑧ 「水環境工学」「環境制御論」「原子力とエネルギー」は、環境技術コースのみ必修とす
る。
- ⑨ 「生態学」「植生学と自然」「水生生物学」「生物多様性と文化」は、地域生態系コースの
み必修とする。
- ⑩ 「ランドスケープ計画論」「緑化植物論」は、環境緑化コースのみ必修とする。
- ⑪ 「環境まちづくり論」「環境アセスメント」は、環境計画コースのみ必修とする。
- ⑫ 卒業研究の履修条件は卒業資格最低単位数 124 単位のうち、96 単位以上を修得し、第 3
年次までに配当された必修科目の未修得単位数が、8 単位以内であること。

(3) 履修モデル〔資料②〕

1、2 年次では基礎的専門教育を通して、環境学全般に関する基礎的学力と基礎的スキルを身
に付け、学生が自身の興味や特性を吟味する中で、将来の専門教育のコースを選択できるよう
に配慮している。3、4 年次ではコース別にコース独自の専門教育科目を履修し、各コースの専
門的な技術及び知識を習得する。

履修モデルが学生によって異なってくるのは、3 年次より 4 コースのいずれかの専門コース
に配属されるからである。1～3 年次では「キャリア関連科目」を通して自分自身の卒業後の進
路を考えるためのキャリア教育を行う。各コースの学生が将来の進路（就職先や進学先）を念
頭に置いてどのような科目を履修すればよいかを示した履修モデルを〔資料②〕に示す。なお、
各コースにおいて各種資格取得を目指す学生は、資格取得のために指定された科目の履修が必
要な場合もある。その場合はこの限りではない。

更に、各コースの卒業に必要な科目を履修した上で、教職に関する科目を履修することで、
中学校及び高等学校の理科教員免許をすべてのコースで取得することができる。ここでは、地
域生態系コースの学生を想定して、中学校及び高等学校の理科教員免許の取得を念頭に置いて
どのような科目を履修すればよいかを示した履修モデルについても〔資料②〕に示す。

(4) 履修科目の登録上限

1 年間に履修できる単位数は 48 単位以内とする。年間 48 単位という履修科目の年間登録

上限を設定することで、授業の予習及び復習を行う時間を十分に確保するとともに、1回生から4回生まで偏ることなくバランスよく授業科目を履修できるようにしている。

7. 施設、設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

本学が現有する校地面積は、併設の短期大学部との共用部分を含めて、約 78,130 m²であり、大学設置基準に定める面積を十分満たしており、デザイン工学部環境理工学科の設置に際して特段、整備の必要はない。

また、運動場用地として約 21,900 m²を有し、正規課程の授業や課外活動に必要なグラウンド、テニスコートなど運動施設も整えている。運動施設は、中央キャンパス内の総合体育館、東キャンパス内にある第一グラウンド、南キャンパスにあるアリーナの他、大学が運行しているバスによる移動にて生駒キャンパスにあるグラウンドへ場所を移して授業が行われる場合もある。

なお、生駒キャンパスへの移動は、所要時間は片道 10 分程度であり、大学が運行しているバスによって安心・安全に移動することが可能である。

そのほか、学生の休息等に必要なスペースとして、食堂、コミュニケーションラウンジ、ランゲージカフェ、談話室等、キャンパス内において十分に確保されており、環境整備にも配慮している。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学の研究室、教室及び演習室については、現状不足なく整備されており、校舎面積は、併設の短期大学部との共用部分を含めて、約 109,500 m²であり、大学設置基準に定める面積を十分に満たしている。

また、環境理工学科開設に伴い、化学、地学、生物学実験及び環境技術・緑化・計画コースに係る実験分析機器、設備等の整備の他、フィールドプラクティス教室等の整備を予定している。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は、地下 1 階付 4 階建て蔵書冊数約 53 万冊、閲覧席数 985 席であり、中央キャンパスに位置し、学問の中心として利用されており、デザイン工学部環境理工学科における教育研究分野に関する図書や学術雑誌についても十分に整備されている。

また、ScienceDirect、JSTOR、EBSCO host、JapanKnowledge lib、日経テレコンなどのデータベースを導入し、図書館内の端末だけでなく、学内の事務室、演習室及び研究室にあるすべてのインターネット端末から利用可能としている。

本学の図書館システムについては、ID 認証方式により個人利用機能（マイライブラリ）を運用しており、学外からでも、図書購入や貸し出し期間の延長、他機関への複写や貸借の申し込みなど豊富な機能を利用できる。

この他、図書館ではグループや個人で学習できるスペースを有し、自由に利用できるパソコンも数台設置している。また、研究に必要な学術雑誌からファッション、スポーツに関する雑誌に至るまで幅広く備えており、多様な学生に配慮した環境を整えている。昨今は、就職に関する情報を求める声も多いことから、就職活動や各種資格取得対策に活用できる資料も整えて

いる。

更に平成 28 年 4 月より、学生の教育環境の一層の充実を図るべく、ラーニング・コモンズスペースを設けた。合わせて学生と教職員が交流するカフェスペースなども設け、キャンパスのアメニティの向上に資する機能を備え付けることとなった。これらの図書館機能を知ってもらうため、4 月には入学生を対象とした「図書館ツアー」も開催しており、図書館の有効利用を促している。

今後は、学習・教育・研究支援の機能のより一層の充実を図り、学生のニーズ等を調査しながら、図書館サービスの更なる充実を図っていく。

8. 入学者選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

① デザイン工学部

デザイン工学部では、21 世紀の高度情報化社会・環境づくりに携わり、社会に貢献するという使命感、倫理観を抱く人材を育てるために、入学者として、意欲的に学ぶことのできる人材を、特定の能力の有無にこだわることなく、幅広く受け入れます。そのために、理系入試、文系入試（以上は、公募推薦・一般入試）、AO 入試、大学入試センター試験利用入試、指定校推薦入試、クラブ推薦入試（スポーツ、文化系クラブ）、特色入試（資格入試、社会人入試、帰国生徒入試）、多様な入学試験を実施します。なお、学部は、「情報システム学科」「建築・環境デザイン学科」「環境理工学科」の 3 学科から成りますが、それぞれ独自のポリシーに従って、受入者を決定します。

② 環境理工学科

環境理工学科では、理学と工学に立脚した学問分野に興味をもち、その分野の柔軟な思考力、高い専門性及び技術を用いて社会に貢献しようとするつぎのような人材を求めています。①地球規模から地域レベルの身近な暮らしまで、さまざまな環境問題に高い関心をもつ学生、②環境に関するさまざまな課題に向き合い、自然科学への探究及び環境保全に意欲をもつ学生、③フィールドで実践的に行動し、環境問題を解決することによる社会貢献をめざす学生を求めます。

(2) 選抜方法

入学者選抜は、全学教授会において承認を得た「入学試験委員会」の基本方針・実施計画に基づき、大学教育を受けるにふさわしい能力・資質・適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施する。

デザイン工学部環境理工学科では、入学者選抜の多様化を図るため、次の選抜方法を実施し、デザイン工学部環境理工学科で学ぶにふさわしい学生を選抜できるように計画する。

また、本学科では、3 年次編入学定員を設定していることから、編入学入試を実施し学生の受入れも行う。

- ① 一般入学試験
 - 筆記試験の成績により選抜
- ② 大学入試センター試験利用入学試験
 - 大学入試センター試験の指定科目の成績により選抜
- ③ 推薦入学試験（公募推薦、スポーツ推薦、文化系クラブ推薦、指定校推薦、特別推薦等）
 - 調査書、教科の素養、小論文、面接等 <※試験制度によって異なる>
- ④ AO 入学試験
 - 調査書、面接等 <※試験制度によって異なる>
- ⑤ 留学生入学試験
 - 日本語の読解・作文、面接等 <※試験制度によって異なる>
- ⑥ 特色入学試験（資格推薦、社会人、帰国生徒等）
 - 調査書、小論文、面接等 <※試験制度によって異なる>
- ⑦ 編入学試験（3年次）
 - 面接等

(3) 選抜体制

入学試験の選抜体制が適正かつ公正に運営されるように、次のような内容で行っている。

- ① 入学者選抜方法に関しては、大阪産業大学入学試験実施規程に基づき、学長、入試センター長、各学部長、各学部より選出された教員などを中心に構成する「入学試験委員会」を設置して全学的に検討し審議している。各学部・学科が求める学生像、育成したい人材を設定し、入学後に必要な学力や能力などを把握できるような入学試験を検討し審議している。併せて、入学試験日程、入学試験ごとの募集定員を検討し審議している。なお、入学試験ごとの募集定員については、推薦入試における募集定員が 50%未満になる様に設定している。
- ② 入学試験判定方法に関しては、入試センターで過去の手続率、最低点、競争倍率などの資料を作成した上で、学長が合格基準点・合格者数の原案（学長原案）を各学部・学科に提示する。これに基づき、各学部・学科は合格基準点・合格者数を検証した上で、学科原案を作成する。その後、学長、副学長、入試センター長、各学部長などで構成する「入学試験判定会議」で公正かつ適切に審議を行い、最終の可否を判定する。
- ③ 入学試験問題作成に関しては、出題採点委員長、出題採点副委員長、各科目の出題および採点委員で構成される学長直轄の独立した「出題採点委員会」を設置して、出題および採点の整合性を確保している。また、入学試験の科目別に、「科目出題採点委員会」を設置し、それぞれの出題とその内容を調整し、入試問題の作成および校正、採点などを行っている。
- ④ 入学試験実施に関しては、入学試験委員会の委員で構成する「入学試験実務委員会」の実務委員長および実務副委員長が中心となって、構成員全員の協同体制のもと、遺漏のないように慎重かつ円滑に入学試験を実施している。また、入学試験当日は入学試験本部を設置し、

不測の事態に対応できるように努めている。

9. 取得可能な資格

① 中学校及び高等学校の理科教員免許の取得

各コースの卒業に必要な科目を履修した上で、教職に関する科目を履修することで、中学校及び高等学校の理科教育免許をすべてのコースで取得することができる。

② 国家資格及び民間資格

取得可能な資格及び、資格取得試験における緩和措置が適用されるものは以下の通りである。

ア. 国家資格

資格名	備考
中学校教諭一種免許状（理科）	所定科目単位の修得により取得できる。（指定学科として申請予定）
高等学校教諭一種免許状（理科）	所定科目単位の修得により取得できる。（指定学科として申請予定）
公害防止管理者（水質）	資格取得を支援する科目あり。
技術士補（環境部門・衛生工学部門・上下水道部門）	試験の対象領域を学ぶ科目あり。
1・2級造園施工管理技士	所定科目単位の修得により、学科・実地試験の受験のための実務経験期間が短縮される。（指定学科として申請予定）
社会福祉主事任用資格	所定科目単位の修得により取得できる。

イ. 民間資格

資格名	備考
Microsoft Office Specialist (Word、Excel)	資格取得を目指し、資格試験の受験を必須とする科目あり。
2級ビオトープ計画管理士	所定科目の修得により筆記試験が一部免除となる。（指定学科として申請予定）
2級ビオトープ施工管理士	所定科目単位の修得により、筆記試験が一部免除となる。（指定学科として申請予定）
GIS 学術士	所定科目単位の修得により取得できる。（指定学科として申請予定）
社会調査士	所定科目単位の修得により取得できる。（指定学科として申請予定）
環境再生医（初級）	所定科目単位の修得により取得できる。（指定学科として申請予定）
環境社会検定	資格取得を支援する科目あり。
3R・低炭素社会検定	資格取得を支援する科目あり。

10. 実習の具体的計画

デザイン工学部環境理工学科において、中学校教諭一種免許状（理科）及び高等学校教諭一種免許状（理科）を取得するために、教育実習は以下の計画で行われる。

(1) 実習先の確保の状況

基本的には各学生が自分で教育実習の受け入れ校を探してお願いしてくるが、何らかの事情でそれができない学生については、本学園内併設の2高等学校、2中学校（大阪産業大学附属中学校・高等学校、大阪桐蔭中学校・高等学校）に本学から受入れを要請する。〔資料③〕

実習校			
学校名	大阪産業大学附属中学校（大阪市城東区古市1-20-26）	学級数：6	生徒数：114名
教員数	12名（内訳）教諭4名、常勤講師5名、客員講師3名		
学校名	大阪桐蔭中学校（大東市中垣内3-1-1）	学級数：19	生徒数：786名
教員数	40名（内訳）教諭19名、常勤講師11名、客員教諭1名、客員講師8名、養護教諭1名		
学校名	大阪産業大学附属高等学校（大阪市城東区古市1-20-26）	学級数：48	生徒数：1,972名
教員数	84名（内訳）教諭61名、常勤講師8名、客員講師15名		
学校名	大阪桐蔭高等学校（大東市中垣内3-1-1）	学級数：44	生徒数：2,233名
教員数	119名（内訳）教諭62名、常勤講師17名、客員教諭6名、客員講師33名、養護教諭1名		

（平成28年4月1日現在）

(2) 実習先との契約内容

学生を受入れる実習先との契約については、承諾書を得た後、必要に応じて実習開始前までに実習に関する各書類の取り交わしを行う。特に実習生には、実習期間中に知り得た業務上の秘密、個人情報の取扱いについての守秘義務指導を徹底している。

(3) 実習水準の確保の方策

本学では、4年次に実習校での教育実習に行くためには、学生は3年次前期から4年次5月まで1年以上にわたって、教育実習のための準備・練習のための科目である「教育実習Ⅰ」を受講していなければならない。この「教育実習Ⅰ」は本学の教職課程の専任教員が担当し各クラスの学生数も30名以内で、実習校での教育実習に臨むための教職教養の基礎知識や指導案の書き方について指導し、すべての学生に模擬授業も行なわせて授業実践力の強化も図る授業である。この「教育実習Ⅰ」を受講するためには、前年度（2年次）終了時点において、総修得単位数（卒業要件外の教職科目も含む）が原則として90単位以上でなければならない、という条件を設けている。

そしてさらに、実習校における現場実習である「教育実習Ⅱa」（4単位）または「教育実習Ⅱb」（2単位）を履修するためには、「教育実習Ⅰ」を履修している者で、4年次以上の卒業見込み者であり、かつ、卒業時に教員免許取得の見込みがあることが必要である、という制限条件を設けている。

また、実習予定の学生の水準を確保するために、「教育実習実施規程」において、「学生生活や修学上の態度について、教職員よりしばしば注意・指導を受けているにもかかわらず、改善が見られない者」、「教育実習事前指導等における模擬授業の結果、実習教科について十分な教授力がないと判断された者」、「その他、教員としての資質に欠けると判断しうる者」は、教職課程委員会の議を経て、教育実習の実施を認めないことがある、としている。

(4) 実習先との連携体制

本学では、すでに二十数年前から、原則としてすべての実習生の実習校を本学専任教員が訪問指導することにしてきている。人間環境学部スポーツ健康学科の学生の実習校にはスポーツ健康学科の専任教員が、その他の学部学科の学生の実習校には教職課程教室の「教職に関する科目」の専任教員が訪問指導を行なうのを原則としている。実習校への訪問にあたっては、事前に教職課程教室の教員とスポーツ健康学科の教員とで打合せ会議を開催し、訪問指導の手順（校長先生への挨拶、授業参観、学生本人と指導教諭を交えての三者面談など）や不安のある学生についての情報交換などを行なって、実習校訪問に備える。実習校への訪問予定については基本的には実習生を通して実習校側に伝えてもらうが、必要に応じて、直接に本学教員から実習校に連絡をする場合もある。そして、実習校側からは、必要に応じて学生を通して本学教員に、ないしは直接に本学の教務課に連絡をしてももらう体制をとっている。

なお、教育実習で生じた諸問題や全体的な結果については、全学の教職課程委員会で報告し、さらに各教授会でも教職課程委員会委員から報告してもらうことによって、全学的な情報の共有を図っている。

(5) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

本学ではすべての学生を対象に毎年度、定期健康診断を実施しているが、とりわけ、教育実習や介護等体験に行く予定の学生には必ず健康診断を受けるように指導している。また、麻疹に対する免疫の問題については、各実習校からの要望を事前に聴取し、必要な場際には、学生に直ちに連絡して医師のところを受診するように、伝えている。なお、実習中に事故が発生することを考慮し、すべての学生に学生傷害保険に加入させている。

(6) 事前・事後における指導計画

教育実習事前（及び事後）指導は、次の計画の通り行われる。

① 時期及び時間数

<3年次において>

3年次 4月～1月（60時間）

<4年次において>

4年次 4月～5月中旬（12時間）、6月下旬（44時間）及び11月上旬（2時間）

② 内容（具体的な指導項目）

<3年次において>

- ・3年次前期より4年次5月中旬ごろまで継続的に毎週、「教育実習Ⅰ」の授業で、教育実習生としての基本的な心得の確認、基本的な教育法規の説明、教育時事の諸テーマについての討論、学習指導計画案作成指導等を行い、更に、各学生に模擬授業を行なわせてそのつど批評会も行なう。
- ・4月…教育実習希望者に対して教育実習の心得についてオリエンテーション（予備登録ガイダンス）を行う。その際、教育実習予備登録書を配布する。
- ・6月下旬…教育実習反省会に「教育実習Ⅰ」を履修中の3年生も必ず参加することにしており、3年生も4年生の実習報告に耳を傾け、教育実習を身近に感じるようになる。
- ・12月…教育実習希望者に対して説明会（本登録ガイダンス）を行う。そこにおいて、教育実習生カードを学生に配布し、記入させる。
その後、教育実習依頼校に依頼文書を交付するが、実習校がうまく決まっていない学生については、個別相談も行なう。

<4年次において>

- ・4月～5月中旬…3年次からの「教育実習Ⅰ」の授業を教育実習が始まる時期の直前まで継続。
- ・5月上旬…教育実習の直前指導としてのオリエンテーションを行う。教育実習日誌の使い方や本学教員の実習校訪問指導の手順等について説明する。
- ・教育実習終了後…学生は教育実習終了報告書を本学教務課に提出。
- ・6月下旬…教育実習反省会（各教育実習生の報告、それに対する教員からの批評、及び、本学出身の中学校または高等学校の現職教員による講演を含む。）
また教育実習反省会後も、必要に応じて、教職課程教室教員は学生を個別指導する。
- ・なお、教育実習反省会は、必要に応じて、11月ごろにも開催する。

(7) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

本学では、原則として、専任教員がすべての教育実習生一人ひとりと面談し、相談や指導に当たることとし、実習期間中に訪問指導（巡回指導）を行なっている。

実習校では、実習生の授業を参観し、授業後に実習生と指導教諭を交えた三者面談を行なって授業への批評や実習全般での状況について、本人や指導教諭と意見を交換しアドバイスを行なうこととしている。また、教育実習が始まる前の4月下旬ごろに、毎年、訪問指導を行なう教職課程教室専任教員およびスポーツ健康学科の専任教員が集まって打合せと留意事項確認のためのミーティングを行なっている。

実習校への訪問指導の日程については、とりあえず本学教員のあいだで予定を組むが、各実習生を通じて実習校に伝えてもらい、実習校の側の都合が悪い場合には修正・変更を行なうこととしている。

(8) 実習施設における指導者の配置計画

本学の側からの訪問指導（巡回指導）は原則としてその学生が3年次より履修している「教育実習Ⅰ」のクラスを担当する教職課程教員またはスポーツ健康学科の所属ゼミの教

員が行なう。実習校の側の教育実習担当指導教諭は、各実習校の事情もあるので一概に強制することはできないが、できるだけ学生一人につき一人（またはそれ以上）の実習担当教員がついてもらうことが望ましい。

(9) 成績評価体制及び単位認定方法

教職課程教室教員 4 名が集まって学年末に会議を開き、実習校からの「教育実習成績報告書」（様式を添付）、訪問担当本学教員からの「教育実習訪問報告カード」（様式を添付）、教育実習反省会の出欠等に基づき、評価シート（様式を添付）を作成し、総合的に成績（S、A、B、C、D）を評価する。

1 1. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

(1) 実習先の確保の状況

地域生態系コースでは、すでに連携関係あるいは共同利用施設として実績のある佐渡ステーション演習林 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター、筑波大学菅平高原実験センター、富山大学氷見ラボなどで演習を実施していく。また、奈良県明日香稲淵（農村景観 100 選）や奈良県吉野との連携関係を今後も継続していく。

(2) 実習先との連携体制

佐渡ステーション演習林 新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター、筑波大学菅平高原実験センターとは連携関係にある。また、奈良県明日香稲淵（農村景観 100 選）の NPO 法人や奈良県吉野森林組合、大東市龍間地域とも連携体制にある。

具体的な連携体制および実習先一覧は、以下の通り。

「地域生態系コースにおける実習先」

受け入れ先機関・団体		所在地	受入可能人数	授業科目
①	新潟大学 農学部附属フィールド科学教育研究センター 佐渡ステーション（演習林）	新潟県（佐渡市）	30 名	生態学 特別演習 1
②	東北大学 植物園八甲田山分園	青森県（青森市）	20 名	
③	富山大学理学部・氷見市連携研究室（氷見ラボ）	富山県（氷見市）	20 名	生態学 特別演習 1・2
④	兵庫県立大学 淡路景観園芸学校	兵庫県（淡路市）	20 名	
⑤	新潟大学 理学部附属臨海実験所	新潟県（佐渡市）	30 名	生態学 特別演習 2
⑥	NPO 法人 明日香の未来を創る会	奈良県（明日香村）	20 名	生物資源 活用演習
⑦	吉野中央森林組合	奈良県（明日香村）	80 名	
⑧	龍間自治会	大阪府（大東市）	20 名	

- ① 環境理工学科担当教員(前迫)とステーション代表は長年にわたり共同研究を推進し、ステーション代表には本学で講義いただくなど、教育研究交流を活発に行っている。これらの教育的視点を理解したうえで、受け入れ機関として複数回に渡り実習を実施しており(平成 23、25、27 年度)、またステーションから教育プログラムを考案頂くなど、十分な情報交流を行うことができる関係にある。
- ② 当該大学植物園長と環境理工学科担当教員(前迫)とは、長年にわたり研究交流があり、また植物園担当教員とも植物学研究者として、相互交流している。すでに実習を行い、充実した教育指導をしていただいた。当施設は国の共同利用施設でもあり、今後も利用を予定している。
- ③ 当該施設の指導者と環境理工学科担当教員(鶴田)とは長年、研究交流を行っている。また、平成 25 年度生活環境学演習で実習を行い、学生にも好評であった。当地の森林評価に協力する体制もできており、今後も円滑な教育交流が可能な状況にある。
- ④ 当該施設の研究科長と環境理工学科担当教員(前迫)とは長年、植生学会を通じて交流が有り、また指導頂いた教員は、本学科非常勤講師でもあり、相互に信頼関係をもって連携している。淡路島における生態学とその保全に関する演習をおこなった実績を有する。(平成 27 年度)
- ⑤ 本学プロジェクト共育(きょういく)事業「森・川・田んぼプロジェクト」(担当教員 前迫/佐藤)にて、明日香村稲渕における棚田オーナー制度を利用した実践的教育活動を行っている。(平成 22 年～現在)
- ⑥ 本学プロジェクト共育(きょういく)事業「森・川・田んぼプロジェクト」(担当教員 前迫/佐藤)にて、明日香村稲渕における棚田オーナー制度を利用した実践的教育活動を行っている。(平成 22 年～現在)
- ⑦ 大学と組合が協定を結び、吉野郡内にある大学演習林の日常の維持管理を組合に委託するとともに、演習林で植樹、下刈り、シカ柵設置、モニタリング調査などを毎年度の授業時(担当教員 前迫ほか)で実施している。(平成 17 年度から現在)
- ⑧ 龍間自治会構成員の協力の下、本学プロジェクト共育(きょういく)事業「森・川・田んぼプロジェクト」(担当教員 前迫/佐藤)にて学生に農産物を生産・加工・配布・販売を实践させる教育活動を行っている。(平成 23 年度～現在)

(3) 成績評価体制及び単位認定方法

講義科目については、担当教員が科目毎にシラバスに明記した評価方法に則って行う。PBL 実習・演習科目については、授業担当者が評価するが、担当者によってばらつきがないように、S から C 評価の比率を決めるとともに、欠席率を重視した評価基準を設けて公平に評価する。

単位認定については、評価にしたがって教務課でとりまとめ、最終的な卒業単位数については、教授会を開催して認定する。

1 2. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

編入学年次は、本学既設学部学科の編入学制度と同様に第3年次編入学とし、編入学定員は10名とする。

(1) 既修得単位の認定方法

編入学生の単位認定は、科目ごとの単位認定を行わず、入学前の修得単位をもって当該学科が指定した所要の単位を修得したのものとして、一括認定を行う。この一括認定は、入学前の基礎能力や専門知識の修得を十分に評価し、編入学生の「総合教育科目履修の負担軽減」と「修業年限内での円滑な履修」を可能にするため、導入している。

当該学科は、既設の人間環境学部生活環境学科の移行改編によるもので、既に一括認定による編入学生の受け入れを行っている。

(2) 履修指導方法

ア. 入学資格が次のいずれかに該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者の卒業要件は、2年以上在学し、62単位を修得した者に対して卒業を認め、卒業者に学士(理工学)の学位を与える。〔資料④〕

- ・ 大学院を修了した者または大学を卒業した者
- ・ 短期大学を卒業した者または高等専門学校を卒業した者
- ・ 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者
- ・ 外国において本邦の高等教育課程と同等の課程を修了した者

既修得単位の取扱い		[3年次]	[4年次]	[卒業]
本学における卒業要件単位の基礎要件として62単位を認める	編入学	・指定する授業科目を含め、合計62単位(自由科目4単位を含む)を修得すること 【内訳】 環境理工学演習1 2単位 環境理工学演習2 2単位 プレ卒研 2単位 卒業研究 4単位 選択するコースの専門教育科目から必修または選択必修4単位 上記の他、フィールド教育科目及び専門教育科目を卒業要件単位として認める		編入学後、 ・2年以上在学 ・62単位を修得 ・学士(理工学)
62単位		62単位		124単位

イ. 入学資格が、専修学校の専門課程を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者の卒業要件は、2年以上在学し、72単位を修得した者に対して卒業を認め、卒業者に学士(理工学)の学位を与える。

既修得単位の取扱い		[3年次]	[4年次]	[卒業]
本学における卒業要件単位の基礎要件として 52 単位を認める	編入学	・指定する授業科目を含め、合計 72 単位 (自由科目 4 単位を含む) を修得すること 【内訳】 環境理工学演習 1 2 単位 環境理工学演習 2 2 単位 プレ卒研 2 単位 卒業研究 4 単位 選択するコースの専門教育科目から必修または選択必修 4 単位 上記の他、フィールド教育科目及び専門教育科目を卒業要件単位として認める		編入学後、 ・2年以上在学 ・72 単位を修得 ・学士(理工学)
52 単位		72 単位		124 単位

ウ. 入学資格が、工学系以外の高等教育課程を修了した者もしくは本学において同等以上の学力があると認めた者(区分ロの 2 と称する)の卒業要件は、2 年以上在学し、専門科目 72 単位を修得した者に対して卒業を認め、卒業者に学士(理工学)の学位を与える。

既修得単位の取扱い		[3年次]	[4年次]	[卒業]
本学における卒業要件単位の基礎要件として 52 単位を認める	編入学	・指定する授業科目を含め、合計 72 単位 (自由科目 4 単位を含む) を修得すること 【内訳】 環境理工学演習 1 2 単位 環境理工学演習 2 2 単位 プレ卒研 2 単位 卒業研究 4 単位 選択するコースの専門教育科目から必修または選択必修 4 単位 上記の他、フィールド教育科目及び専門教育科目を卒業要件単位として認める		編入学後、 ・2年以上在学 ・72 単位を修得 ・学士(理工学)
52 単位		72 単位		124 単位

(3) 教育上の配慮等

編入学生の単位取得に際して 1 年間の履修単位数制限や 4 年次の必修科目である卒業研究の既修得要件単位等の履修制限を緩和する。

なお、入学資格が区分アの学生については、編入学後に必要な修得単位数は 62 単位であり、学年平均修得必要単位数は通常学生とほぼ同じであるので、基本的には、修学は困難ではないが、計画的かつ円滑な学修を可能になるよう修学指導を徹底する。

一方、入学資格が区分イ、ウの学生については、修得必要単位数が 72 単位と多くなり、

履修の困難さが増す。そこで、科目全般について綿密な個別の修学指導を行う。

また、理科教員免許取得のためには、所定の単位を取得する必要がある。理科教員免許取得を希望する編入生のために、学科内で周知徹底するとともに、編入時に必要な指導を個別に行って取得可能な最善の方法を決定する。

13. 管理運営

(1) 教授会の役割等

各学部（教養部含む）ならびに短期大学部に教授会、また、大学院には研究科委員会が置かれ、原則としてそれぞれ月1回開催されている。構成は、教授から助手までの全専任教員からなり、審議事項は、大阪産業大学教授会規程において次のように定められている。

第3条 教授会は、教育研究に関する次の事項を審議する。

- (1) 学部長等（以下「学部長等」という。）および協議会協議員ならびに各種委員会委員の選出に関する事項
- (2) 各学部等（以下「学部等」という。）に関する諸規程の制定および改廃に関する事項
- (3) 学科、専攻等の設置、廃止および変更に関する事項
- (4) 学生の成績評価に関する事項
- (5) 学生の厚生、補導に関する事項
- (6) 学生の賞罰に関する事項
- (7) 教育および研究に関する事項
- (8) 学部等の事業計画および予算申請に関する事項
- (9) 学科目の種類および編成に関する事項
- (10) 学生の入学、退学、休学、復学、転部および卒業その他学生の身分に関する事項
- (11) 学位の授与に関する事項
- (12) 教育職員の人事に関する事項
- (13) 学長より諮問された事項
- (14) その他、学部等の運営上重要な事項

(2) 教授会以外の管理運営機関の役割等

学長のもとに、大学協議会が設けられている。その構成は学長、副学長、各学部長、教務部長、学生部長、入試センター長、総合図書館長、教育研究推進センター長、キャリアセンター長、情報科学センター所長及び教育支援センター長、事務部長ならびに各学部から選出された教授3名である。これは、各学部共通の事項や全学的な重要事項を審議、調整する機関であり、原則として月1回開催されている。審議事項は大阪産業大学協議会規程において、次のように定められている。

(審議事項)

第4条 協議会は、教育研究に関する次の事項を審議する。

- (1) 学則および学内諸規程の制定、改廃に関する事項

- (2) 学部、学科の設置、廃止および変更に関する事項
- (3) 主要な施設の設置、廃止および変更に関する事項
- (4) 教育職員の人事に関する各学部共通の事項
- (5) 教学に関する各学部共通の事項
- (6) 学生の厚生補導および賞罰に関する事項
- (7) 予算の編成執行の基本方針に関する事項
- (8) 議長から審議要請された事項
- (9) その他、本学の運営上重要な事項

14. 自己点検・評価

自己点検・評価の体制を確固としたものにすべく、平成6年度より20の「自己点検・評価委員会」を設置している。「自己点検・評価全学委員会」「自己点検・評価基本事項委員会」及び18の「自己点検・評価個別委員会」がある。「全学委員会」の委員長は学長が担当し、基本事項委員会及び個別委員会を統括するとともに自己点検・評価体制の検討、自己点検・評価項目の設定、自己点検・評価の結果の集約、報告書の作成、及び協議会への提出を担当している。「基本事項委員会」は、副学長のうちの1名を委員長とし、自己点検・評価の基本事項に関わること、自己点検・評価のための企画・立案に関することを取り扱うとともに、全学委員会委員長から諮問された事項を検討し、その結果について報告書を提出することを担当している。各「個別委員会」は所管の点検・評価項目について自己点検・評価を行い、その結果について全学委員会に報告書を提出することを担当している。また、このような委員会構成から自己点検・評価の体制の構築と、事務的な取りまとめは学長事務室が担っている。

なお、自己点検・評価の大項目は、「大学・学部・研究科等の理念・目的」「教育研究組織」「教員・教員組織」「教育内容・方法・成果」「学生の受け入れ」「学生支援」「教育研究等環境」「社会連携・社会貢献」「管理運営・財務」「内部質保証」であり、現状の説明、点検・評価、将来に向けた発展方策等において、明確な方針が設定され適切に実施されているかの点検・評価により改善すべき事項を取りまとめ、平成27年度報告書を大学基準協会に提出している。

その結果、認定期間は改善状況を3年後までに再評価とする平成31年3月31日までの認定評価を受けている

15. 情報の公表

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(平成22年文部科学省令第15号)に則って、次に掲げる大学の情報を本学のホームページを通じて、広く社会に公表している。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)

- ② 教育研究上の基本組織に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)
- ⑩ その他
ア. 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)

イ. 学則等各種規程

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)

ウ. 設置届出書

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)

エ. 設置計画履行状況報告書

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)

オ. 自己点検・評価報告書

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)

カ. 認証評価の結果

<http://www.osaka-sandai.ac.jp/> (本学ホームページ) トップ>大学案内
>情報公開>情報公開 (教育研究活動等)

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

平成20年度より、教育支援委員会の中にFD部会を常設委員会として設置しており、FD部会で、例年授業評価アンケートを実施している。

教育職員は、授業改善アンケート結果を学生の声として真摯に受け止め、アンケート結果に対する所見書を提出することとし、授業方法の改善に努力している。

その他、これまでに「教え上手な先生の表彰」「授業の公開」「授業の改善方法に関するフォーラム」「FDワークショップ」などを行うなど教育の向上を目指しており、今後においてもその取組は継続して行われる。更には、事務職員が授業内容や方法の改善に関するフォーラムや研修会に参加することで、取り組みの内容を理解し種々の方面からの授業改善を支援している。

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

一般に、キャリア・職業教育は、社会における責任ある生き方を自覚し、社会的・職業的に自立した人間を育成することであるが、本学科は、幅広い以下の多様な実践教育のなかで「問題解決力」の養成を通じた「人間基礎力」の養成を図っていく。

(1) 教育課程内の取組について

環境理工学科では、地球と地域のより良い環境の創出を担う人材を育成・輩出するため、入学直後の1年次から卒業まで、教育課程全般を通じてはもとより、併せてキャリア関連科

目群を設け、学生の社会的・職業的自立が図られるよう取り組みを行う。卒業後は、大学院進学その他、公務員、理科教員、民間企業（環境技術者、緑化・造園技術者、都市施設維持管理企業、建設産業・不動産業、エネルギー関連産業、食品関連産業等）等の多様な進路を想定した以下の内容とする。

① 教育課程全般を通じた能力の向上

教育課程全般を通じて、客観的な自己理解（自己能力と自己適性の客観的把握）、人形成力・コミュニケーション能力の養成、課題対応力の養成を図る。

1年次の必修科目である「フィールドプラクティス 1」では、基本技術と各コースに関わるテーマについて、グループローテーション方式により、表現・コミュニケーション力を養成する。また、1年次の選択科目である「フィールドプラクティス 2」では、見学学習と課題解決作業を通じた表現・コミュニケーション力の養成を行う。

基盤科目では、1年次の必修科目である「データ分析入門 1・2」、2年次の必修科目である「情報機器の操作 1・2」を通じて基本的な情報処理スキルの習得を促すとともに、3年次では必要に応じて「コンピュータグラフィックス」「Web デザイン/プレゼンテーション」を履修させることで、更に高度な情報処理スキルを習得させる。

演習科目では、2年次の必修科目である「フィールドスタジオ演習 1・2」により課題対応力の基礎を養成した上で、3年次以降は3年次必修科目である「環境理工学演習 1・2」やコースに応じた専門的な演習を設け、課題対応力の一層の向上を図る。理科教員を志す学生に対しては、実験科目を用意し、実験や実習に強い教員の養成を行う。

3年次に「プレ卒研」を、4年次に「卒業研究」を必修とし、各コースの専門分野での学びを通して客観的な自己理解、人間関係形成力・コミュニケーション能力の養成、課題対応力の養成を総合的に図る。

② キャリア関連科目群を通じた能力の向上

キャリア関連科目群により、キャリアプランニング力（職業就職進路の自覚）の養成、就職実践スキルの養成、就職実践知識の習得を促す。

ア. 入門ゼミ 1・2

1年次の必修科目として、学科教員のほとんどがそれぞれ6~7名程度の学生を受け持ち、入学後の円滑な学生生活ができるように誘導することのみならず、近い将来に社会へ出ていくことをふまえた学習の態度を身につけさせるとともに、社会的・職業的自立を促す動機付けを行う。

イ. 環境資格対策 1・2

1年次の選択科目として、国家資格である公害防止管理者、公務員試験、3R・低炭素社会検定等の各種試験対策の指導を行う。

ウ. キャリアデザイン 1・2

2年次の必修科目として、「労働に関する基本的な事項」の学習機会を提供するとともに、「SPI 対策の基本」に取り組みさせることで、就職活動に向けて能力の向上を図る。労働に関する基本的な事項については、労働基本法や雇用の仕組みなどの働くことに関して基本的に

知っておくべき知識、パワハラやブラックバイトなどの学生生活の中で認識しておくべき事項、就業体験や環境系企業の紹介等の将来に向けた実社会との接点の創出等、知識の習得と実践と兼ね備えた内容とする。また、SPI 対策の基礎は「キャリアセンター」が実施する SPI 対策を活用して能力向上を図っていく。

エ. 特別演習 1

3 年前期の選択科目として、SPI 対策の本格的な取り組みを行い、将来の進路決定のために役立つ実践能力を高める。

オ. 特別演習 2

3 年後期の選択科目として、環境分野を中心とした外部講師による実践講義を行い、学生の進路（業界選び）につなげる。

(2) 教育課程外の取組について

学科としてキャリア・職業教育に以下の組織により積極的に取り組む。

[担任制]

学科内では、1 年次必修の「入門ゼミ」を通じて、専任教員による、キャリア・職業相談や適性アドバイスを進め、4 年間を通して、学生一人一人の職業進路にきめ細かく対応する。

[学科キャリア教育委員会]

キャリア委員を務める専任教員を中心にして学科キャリア委員会を設置し、大学の「キャリアセンター」と協力しながら、学科学生に求められる進路就職情報やガイダンスを体系的に組織立て、管理する。また、この学科キャリア委員会の下、卒業研究担当教員が、卒業予定学生の進路就職に責任を持つ体制とする。

[実践的社会活動組織]

学内外での実践的社会活動組織を用意し、それらへの参加を通じて実践的体験的キャリア・職業教育を幅広く行う。実社会の課題に正面から向き合う体験によって「人間基礎力」と「問題解決力」を育成する。「社会人基礎力」養成を目的として平成 19 年度から始まった本学の「プロジェクト共育」等環境理工学科の教員が代表をつとめ、全学的に学生が自主的活動を行っている「森・川・田んぼプロジェクト」「エコ推進プロジェクト」「菜の花プロジェクト」「地域・市民共同発電所プロジェクト」等、が、学内外で活動する組織としてすでに活動をすすめている。これらへの自主的参加を通して、実際的な社会的責任を伴う他者との共同作業を体験させて、各自の人間形成を促し、「人間基礎力」と「問題解決力」の養成を図る。

[インターンシップ]

すでに制度化されている「インターンシップ」への参加の機会を更に数多く提供し、実社会での職業体験・訓練の場を提供する。

[資格講座]

具体的な職業教育として、各種資格受験対策講座、各分野別職業指導講座、企業研究講座等、既に実施されている講座等を更に充実させ、職業観の養成をはかる。

(3) 適切な体制の整備について

「学科」と、就職活動を支援する「キャリアセンター」、資格取得を支援し、また、プロジェクト共育をサポートする「教育支援センター」が有機的に連携して、学生一人一人の多様な要求に応える体制をつくる。

<環境技術コースの履修モデル>

は、履修推奨科目を示す。

区分		科目・単位								卒業要件単位				
		1年次開講		2年次開講		3年次開講		4年次開講						
フィールド教育科目	フィールド プラクティス	フィールドプラクティス1	必	2								12単位以上		
	フィールド関連 教養科目	フィールドプラクティス2		2	環境問題へのアプローチ		2							
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	哲学		2							20単位以上	124単位以上	学士(工学)
			心理学		2									
		社会思想史		2										
		日本の社会と文化1		2										
		日本の社会と文化2		2										
		日本国憲法		2										
	社会科学	経済学		2										
		地理学		2										
		数学の基礎		2										
	自然科学	物理の基礎		2										
		化学の基礎		2										
		生物の基礎		2										
	学際領域	時事問題		2										
		倫理学(工業倫理含む)		2										
	日本文化	日本事情1	必(留学)	2										
日本事情2		必(留学)	2											
教育哲学			2											
人間教育	教育心理学		2											
	道徳教育の理論と方法		2											
言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1		1	英語(Listening&Speaking)3		1	英語総合(上級)1			4単位以上			
		英語(Listening&Speaking)2		1	英語(Listening&Speaking)4		1	英語総合(上級)2						
		英語(Reading&Writing)1		1	TOEIC上級(Listening)1		1							
		英語(Reading&Writing)2		1	TOEIC上級(Listening)2		1							
	初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語)		1	初修外国語初級1(ドイツ語)		1							
		初修外国語入門1(フランス語)		1	初修外国語初級1(フランス語)		1							
		初修外国語入門1(中国語)		1	初修外国語初級1(中国語)		1							
		初修外国語入門2(ドイツ語)		1	初修外国語初級2(ドイツ語)		1							
		初修外国語入門2(フランス語)		1	初修外国語初級2(フランス語)		1							
		初修外国語入門2(中国語)		1	初修外国語初級2(中国語)		1							
	日本語	日本語読解1	必(留学)	1	上級日本語読解1	必(留学)	1							
日本語読解2		必(留学)	1	上級日本語読解2	必(留学)	1								
日本語作文1		必(留学)	1	上級日本語作文1	必(留学)	1			1					
身体科学科目	スポーツ科学実習		1											
	運動科学		2											
専門教育科目	基盤科目	環境学概論	必	2	コンピュータグラフィックス		2	大気環境学		2	86単位以上			
		データ分析入門1	必	2	Webデザイン/プレゼンテーション		2	統計解析の基礎		2				
		データ分析入門2	必	2	物理学概論		2	統計解析の応用		2				
		情報機器の操作1	必	2	化学概論		2							
		情報機器の操作2	必	2	生物学概論		2							
				2	地学概論		2							
				2	環境と物理学		2							
				2	環境と化学		2							
				2	生態学		2							
				2	宇宙科学と人類		2							
			2	環境のための分析化学	必	2								
			2	水環境工学		2								
			2	社会調査の基礎		2								
			2	環境まちづくり論		2								
			2	社会調査の手法		2								
	発展科目		植生管理とビオトープ		2	土壌環境論		2	生命と多様性の科学		2			
			緑の環境工学		2	植生学と自然		2	ランドスケープの歴史		2			
			地域コミュニティ論		2	ランドスケープ計画論		2	環境のマネジメント		2			
			環境政策論		2	地域環境のシステム分析		2						
			花と緑の計画論		2	空間情報科学		2						
			都市・交通計画論		2	環境制御論	必	2						
		産業物論		2	原子力とエネルギー	必	2							
演習		環境経済論		2	水生生物学		2							
				2	生物多様性と文化		2							
				2	生態系評価とビオトープ施工論		2							
				2	緑化植物論		2							
実験	物理学実験		2	生物学実験		2								
	化学実験		2	地学実験		2								
			2			2								
卒業研究														
実践教育科目	キャリア関連科目	入門ゼミ1	必	1	キャリアデザイン1	必	2	特別演習1		1	6単位以上			
		入門ゼミ2	必	1	キャリアデザイン2	必	2	特別演習2		1				
		環境資格対策1		1										
		環境資格対策2		1										
		小計		85	小計		94	小計		50	小計		12	
4年以上在学														

<地域生態系コースの履修モデル>

は、履修推奨科目を示す。

区分	科目・単位										卒業要件単位		
	1年次開講		2年次開講		3年次開講		4年次開講		12単位以上	20単位以上	4単位以上	124単位以上	学士(理工学)
フィールド教育科目	フィールド プラクティス	フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2	必 2	2									
	フィールド関連 教養科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン	2 2 2 2	2	2								
総合教育科目	教養教育科目	人文学科	心理学 社会思想史 日本の社会と文化1 日本の社会と文化2	2 2 2 2									
		社会科学	日本国憲法 経済学 地理学	2 2 2									
		自然科学	数学の基礎 物理の基礎 化学の基礎 生物の基礎	2 2 2 2									
		学際領域	時事問題 倫理学(工業倫理含む) 科学技術史	2 2 2									
		日本文化	日本事情1 日本事情2	2 2									
		人間教育	教育哲学 教育心理学	2 2									
	言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	2 2 2 2									
		初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語) 初修外国語入門1(フランス語) 初修外国語入門1(中国語) 初修外国語入門2(ドイツ語) 初修外国語入門2(フランス語) 初修外国語入門2(中国語)	1 1 1 1 1 1									
		日本語	日本語検定1 日本語検定2 日本語作文1 日本語作文2	1 1 1 1									
		身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	2 1									
	専門教育科目	基盤科目	環境学概論 データ分析入門1 データ分析入門2 情報機器の操作1 情報機器の操作2	2 2 2 2 2									
			必 2	2									
			必 2	2									
			必 2	2									
発展科目		必 2	2										
		必 2	2										
		必 2	2										
		必 2	2										
		必 2	2										
		必 2	2										
演習	フィールドスタジオリポート 緑の環境工学 地域コミュニティ論 環境政策論 花と緑の計画論 都市・交通計画論 廃棄物論 環境経済論	2 2 2 2 2 2 2 2											
	必 2	2											
実験	物理学実験 化学実験	2 2											
	2	2											
卒業研究	卒業研究	必 4											
	必 4	4											
実践教育科目	キャリア関連科目	入門ゼミ1 入門ゼミ2 環境資格対策1 環境資格対策2	1 1 1 1										
		1 1											
小計		85		94		50		12					

4年以上在学

<環境緑化コースの履修モデル>

は、履修推奨科目を示す。

区分	1年次開講		2年次開講		3年次開講		4年次開講		卒業要件単位							
	科目・単位		科目・単位		科目・単位		科目・単位									
フィールド教育科目	フィールド プラクティス	フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2	必 2	2								12単位以上				
	フィールド関連 教養科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン	2 2 2 2	2 2 2 2	環境問題へのアプローチ	2										
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	哲学 心理学 社会思想史 日本の社会と文化1 日本の社会と文化2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2							20単位以上				
		社会科学	日本国憲法 地理学	2 2	2 2											
		自然科学	数学の基礎 物理の基礎 化学の基礎 生物の基礎	2 2 2 2	2 2 2 2											
		学際領域	時事問題 倫理学(工業倫理含む) 科学技術史	2 2 2	2 2 2											
		日本文化	日本事情1 日本事情2	2 2	2 2											
		人間教育	教育哲学 教育心理学	2 2	2 2	道徳教育の理論と方法 人権教育 生涯学習論	2 2 2									
	言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	1 1 1 1	1 1 1 1	英語(Listening&Speaking)3 英語(Listening&Speaking)4 TOEIC上級(Listening)1 TOEIC上級(Listening)2 英語(Reading&Writing)3 英語(Reading&Writing)4 TOEIC上級(Reading)1 TOEIC上級(Reading)2	1 1 1 1 1 1 1 1	英語総合(上級)1 英語総合(上級)2					4単位以上			
			初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語) 初修外国語入門1(フランス語) 初修外国語入門1(中国語) 初修外国語入門2(ドイツ語) 初修外国語入門2(フランス語) 初修外国語入門2(中国語)	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	初修外国語初級1(ドイツ語) 初修外国語初級1(フランス語) 初修外国語初級1(中国語) 初修外国語初級2(ドイツ語) 初修外国語初級2(フランス語) 初修外国語初級2(中国語)	1 1 1 1 1 1								
		日本語	日本語読解1 日本語読解2 日本語作文1 日本語作文2	1 1 1 1	1 1 1 1	上級日本語読解1 上級日本語読解2 上級日本語作文1 上級日本語作文2	1 1 1 1	必(留学) 必(留学) 必(留学) 必(留学)								
			身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	1 2	1 2										
	専門教育科目	基礎科目	環境学概論 データ分析入門1 データ分析入門2 情報機器の操作1 情報機器の操作2	必 必 必 必 必	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2				86単位以上		
			発展科目	衛生管理とバイオトープ 緑の環境工学 地域コミュニティ論 環境政策論 花と緑の計画論 都市・交通計画論 廃棄物論 環境経済論			2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2		2 2 2 2 2 2 2 2		2 2 2 2 2 2 2 2	
				演習	フィールドスタジオ演習1 フィールドスタジオ演習2 生態学特別演習1 生態学特別演習2 環境計画フィールド演習1 CAD演習1 CAD演習2			必 必 必 必 必 必 必	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2		2 2 2 2 2 2 2		2 2 2 2 2 2 2	
					実験 卒業研究	物理学実験 化学実験	2 2	2 2	2 2	2 2	2 2		2 2		2 2	2 2
実践教育科目		キャリア関連科目		入門ゼミ1 入門ゼミ2 環境資格対策1 環境資格対策2	必 必 1 1	1 1 1 1	キャリアデザイン1 キャリアデザイン2	必 必	2 2	2 2	2 2	2 2			6単位以上	
				小計	85	4年以上在学	94	小計	50	小計	12					

<環境計画コースの履修モデル>

は、履修推奨科目を示す。

区分	科目・単位												卒業要件単位							
	1年次開講			2年次開講			3年次開講			4年次開講										
フィールド教育科目	フィールド プラクティス		フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2	必 2	2													12単位以上		
	フィールド関連 教養科目		環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン		2 2 2 2		2													
総合教育科目	人文科学	留学		2														20単位以上		
		心理学		2																
		社会思想史		2																
		日本の社会と文化1		2																
		日本の社会と文化2		2																
	社会科学	日本国憲法		2																
		経済学		2																
	自然科学	地理学		2																
		数学の基礎		2																
	学際領域	物理の基礎		2																
		化学の基礎		2																
	学際領域	倫理学(工業倫理含む)		2																
		科学技術史		2																
	日本文化	日本事情1		必(留学)	2															
		日本事情2		必(留学)	2															
人間教育	教育哲学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	教育心理学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4単位以上		
		英語(Listening&Speaking)2		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
		英語(Reading&Writing)1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
		英語(Reading&Writing)2		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語)		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
		初修外国語入門1(フランス語)		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
		初修外国語入門1(中国語)		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
		初修外国語入門2(ドイツ語)		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	日本語	日本語読解1		必(留学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		日本語読解2		必(留学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		日本語作文1		必(留学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
		日本語作文2		必(留学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
身体科学科目	スポーツ科学実習		1																	
専門教育科目	基礎科目	環境学概論	必	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
		データ分析入門1	必	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
		データ分析入門2	必	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
		情報機器の操作1	必	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
		情報機器の操作2	必	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
		地学概論		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		環境と物理学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		環境と化学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		生態学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		宇宙科学と人類		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	環境のための分析化学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	水環境工学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	社会調査の基礎		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	環境まちづくり論		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	社会調査の手法		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
発展科目	樹生管理とビオトープ		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	緑の環境工学		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	地域コミュニケーション		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	環境政策論		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	花と緑の計画論		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
演習	都市・交通計画論		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	産業論		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	環境経済論		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	フィールドスタジオ演習1	必	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	フィールドスタジオ演習2	必	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
卒業研究		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2			
実践教育科目	キャリア関連科目	入門ゼミ1	必	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
		入門ゼミ2	必	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
		環境資格対策1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
		環境資格対策2		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
小計			85	小計			94	小計			50	小計			12	6単位以上				
4年以上在学																				

<中学校理科教員免許取得（地域生態系コースの場合）の履修モデル>

区分	科目・単位				卒業要件単位						
	1年次開講	2年次開講	3年次開講	4年次開講	卒業要件単位	卒業要件単位					
フィールド教育科目	フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2	必 2 必 2				12単位以上					
	フィールド関連 教養科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン	2 2 2 2	環境問題へのアプローチ 2							
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	哲学 心理学 社会思想史 日本の社会と文化1 日本の社会と文化2	2 2 2 選必(留学) 2 選必(留学) 2			20単位以上				
		社会科学	日本国憲法 経済学 地理学	2 2 2							
		自然科学	数学の基礎 物理の基礎 化学の基礎 生物の基礎	2 2 2 2							
		学際領域	時事問題 倫理学(工業倫理含む) 科学技術史	2 2 2							
		日本文化	日本事情1 日本事情2	2 2							
		人間教育	教育哲学 教育心理学	2 2	道徳教育の理論と方法 2 人権教育 2						
		英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	1 1 1 1	英語上級(Listening)3 英語上級(Listening&Speaking)4 TOEIC上級(Listening)1 TOEIC上級(Listening)2 英語(Reading&Writing)3 英語(Reading&Writing)4 TOEIC上級(Reading)1 TOEIC上級(Reading)2 英語海外研修 2	1 1 1 1 1 1 1 1 2		英語総合(上級)1 英語総合(上級)2	4単位以上		
			言語文化科目	初級外国語入門1(ドイツ語) 初級外国語入門1(フランス語) 初級外国語入門1(中国語) 初級外国語入門2(ドイツ語) 初級外国語入門2(フランス語) 初級外国語入門2(中国語)	1 1 1 1 1 1	初級外国語初級1(ドイツ語) 初級外国語初級1(フランス語) 初級外国語初級1(中国語) 初級外国語初級2(ドイツ語) 初級外国語初級2(フランス語) 初級外国語初級2(中国語)	1 1 1 1 1 1				
				日本語	日本語読解1 日本語読解2 日本語作文1 日本語作文2	1 必(留学) 1 必(留学) 1 必(留学) 1	上級日本語読解1 上級日本語読解2 上級日本語作文1 上級日本語作文2	1 必(留学) 1 必(留学) 1 必(留学) 1		124単位以上	
				身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	1 2					
	専門教育科目			基礎科目	環境学概論 データ分析入門1 データ分析入門2 情報収集の操作1 情報機器の操作2	必 2 必 2 必 2 必 2 必 2	2コンピュータグラフィックス 2Webデザイン/プレゼンテーション 2物理学概論 2化学概論 2生物学概論 2地学概論 2環境と物理学 2環境と化学 2生態学 2宇宙科学と人類 2環境のための分析化学 2水環境工学 2社会調査の基礎 2環境まちづくり論 2社会調査の手法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		2大気環境学 2統計解析の基礎 2統計解析の応用	
		発展科目	緑の環境工学 地域コミュニティ論 環境政策論 花と緑の計画論 都市・交通計画論 農業物産論 環境経済論			2緑生管理とビオトープ 2緑の環境工学 2地域コミュニティ論 2環境政策論 2花と緑の計画論 2都市・交通計画論 2農業物産論 2環境経済論	2 2 2 2 2 2 2 2	2工場環境学 2緑生学と自然 2ランドスケープ計画論 2地域環境のシステム分析 2空間情報科学 2環境制御論 2原子力とエネルギー 2水生物学 2生物多様性と文化 2生態系評価とビオトープ施工論 2緑化植物論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2生命と多様性の科学 2ランドスケープの歴史 2環境のマネジメント	2 2 2
			演習		フィールドスタジオ演習1 フィールドスタジオ演習2 生態学特別演習1 生態学特別演習2 環境計画フィールド演習1 CAD演習1 CAD演習2	必 2 必 2 2 2 2 2 2	2環境アセスメント 2環境工学演習1 2環境工学演習2 2生物資源活用演習 2緑化施工演習 2環境計画フィールド演習2 2GIS演習1 2GIS演習2	2 2 2 2 2 2 2	2地球環境演習	2	
					実験	物理学実験 化学実験	2 2	2生物学実験 2地学実験	2 2		
						卒業研究			2卒業研究	2	
実践教育科目			キャリア関連科目		入門ゼミ1 入門ゼミ2 環境資格対策1 環境資格対策2	必 1 必 1 1 1	1キャリアデザイン1 1キャリアデザイン2	必 2 必 2	2特別演習1 2特別演習2	1 1	6単位以上
					小計	85	小計	94	小計	50	小計
			4年以上在学								
教職に関する科目 (卒業に関わる科目以外)		教職入門 教育方法論	2 2		2教育の制度と歴史 2教育相談の理論と方法 2生徒指導・進路指導論 2理科教育法Ⅰ 2理科教育法Ⅱ	2教育実習Ⅰ 2特別活動論 2教育相談論 2理科教育法Ⅲ 2理科教育法Ⅳ	1 2 2 2 2	1教育実習Ⅱa 2教職実践演習(中・高)	4 2		

<高等学校理科教員免許取得（地域生態系コースの場合）の履修モデル>

区分	科目・単位				卒業要件単位		
	1年次開講	2年次開講	3年次開講	4年次開講			
フィールド教育科目	フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2	必 2 2			12単位以上		
	フィールド関連 教養科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境観化入門 持続可能な社会のデザイン	2 2 2 2	2			
総合教育科目	人文科学	哲学	2			20単位以上	
		心理学	2				
		社会思想史	2				
		日本の社会と文化1	2				
		日本の社会と文化2	2				
	社会科学	日本国憲法	2			20単位以上	
		経済学	2				
	自然科学	物理学の基礎	2			20単位以上	
		化学の基礎	2				
		生物の基礎	2				
	学際領域	倫理学(工業倫理含む)	2			20単位以上	
		科学技術史	2				
	日本文化	日本事情1	2			20単位以上	
		日本事情2	2				
	人間教育	教育哲学	2			20単位以上	
教育心理学		2					
英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	2 2 2 2			4単位以上		
	英語(Listening&Speaking)3 英語(Listening&Speaking)4 TOEIC上級(Listening)1 TOEIC上級(Listening)2 英語(Reading&Writing)3 英語(Reading&Writing)4 TOEIC上級(Reading)1 TOEIC上級(Reading)2 英語海外研修	2 2 1 1 1 1 1 1 2					
言語文化科目	初修外国語入門1(ドイツ語) 初修外国語入門1(フランス語) 初修外国語入門1(中国語) 初修外国語入門2(ドイツ語) 初修外国語入門2(フランス語) 初修外国語入門2(中国語)	1 1 1 1 1 1			124単位以上		
	日本語読解1 日本語読解2 日本語作文1 日本語作文2	1 1 1 1					
身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	2 2			124単位以上		
専門教育科目	基礎科目	環境学概論	2			86単位以上	
		データ分析入門1	2				
		データ分析入門2	2				
		情報機器の操作1	2				
		情報機器の操作2	2				
	発展科目	コンピュータグラフィックス	2				86単位以上
		Webデザイン/プレゼンテーション	2				
		物理学概論	2				
		化学概論	2				
		生物学概論	2				
		地学概論	2				
		環境と物理学	2				
		環境と化学	2				
		生態学	2				
		宇宙科学と人類	2				
環境のための分析化学	2						
演習	水環境工学	2			86単位以上		
	社会調査の基礎	2					
	環境まちづくり論	2					
	社会調査の手法	2					
	環境と社会学	2					
実務	環境と社会学	2			86単位以上		
	環境と社会学	2					
	環境と社会学	2					
	環境と社会学	2					
	環境と社会学	2					
実践教育科目	キャリアデザイン1	1			6単位以上		
	キャリアデザイン2	1					
	環境資格対策1	1					
	環境資格対策2	1					
	環境資格対策3	1					
小計	85	94	50	12			
4年以上在学							
教職に関する科目 (卒業に関わる科目以外)	教職入門	2			2		
	教育方法論	2			2		
	教育の制度と歴史	2			2		
	教育相談の理論と方法	2			2		
	生徒指導・進路指導論	2			2		
教育実習Ⅰ	2				2		
特別活動論	2				2		
教育課程論	2				2		
理科教育法Ⅲ	2				2		
理科教育法Ⅳ	2				2		

<編入学 環境技術コースの履修モデル>

区分		科目・単位								卒業要件単位			
		1年次開講		2年次開講		3年次開講		4年次開講					
フィールド教育科目	フィールドプラクティス	フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2	2 2										
	フィールド関連 教養科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン	2 2 2 2	環境問題へのアプローチ	2								
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	哲学 心理学 社会思想史 日本の社会と文化1 日本の社会と文化2	2 2 2 2 2									
		社会科学	日本国憲法 経済学 地理学	2 2 2									
		自然科学	数学の基礎 物理の基礎 化学の基礎 生物の基礎	2 2 2 2									
		学際領域	倫理学(工業倫理含む) 科学技術史	2 2									
		日本文化	日本事情1 日本事情2	2 2	必(留学)								
		人間教育	教育哲学 教育心理学	2 2	2 道徳教育の理論と方法 2 人権教育 2 生涯学習	2 2 2							
	言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	1 1 1 1	英語(Listening&Speaking)3 英語(Listening&Speaking)4 TOEIC上級(Listening)1 TOEIC上級(Listening)2 英語(Reading&Writing)3 英語(Reading&Writing)4 TOEIC上級(Reading)1 TOEIC上級(Reading)2 英語海外研修	1 1 1 1 1 1 1 2	英語総合(上級)1 英語総合(上級)2						
		初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語) 初修外国語入門1(フランス語) 初修外国語入門1(中国語) 初修外国語入門2(ドイツ語) 初修外国語入門2(フランス語) 初修外国語入門2(中国語)	1 1 1 1 1 1	初修外国語初級1(ドイツ語) 初修外国語初級1(フランス語) 初修外国語初級1(中国語) 初修外国語初級2(ドイツ語) 初修外国語初級2(フランス語) 初修外国語初級2(中国語)	1 1 1 1 1 1							
			日本語	日本語読解1 日本語読解2 日本語作文1 日本語作文2	1 1 1 1	上級日本語読解1 上級日本語読解2 上級日本語作文1 上級日本語作文2	1 1 1 1	必(留学) 必(留学) 必(留学) 必(留学)					
			身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	1 2								
			専門教育科目	基礎科目	環境学概論 データ分析入門1 データ分析入門2 情報機器の操作1 情報機器の操作2	2 2 2 2 2	2 コンピュータグラフィックス 2 Webデザイン/プレゼンテーション 2 物理学概論 2 化学概論 2 生物学概論 2 地学概論 2 環境と物理学 2 環境と化学 2 生態学 2 宇宙科学と人類 2 環境のための分析化学 2 水環境工学 2 社会調査の基礎 2 環境まちづくり論 2 社会調査の手法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	必	2 大気環境学 2 統計解析の基礎 2 統計解析の応用	2 2 2		
		発展科目			共生管理とビオトープ 緑の環境工学 地域コミュニティ論 環境政策論 花と緑の計画論 都市・交通計画論 廃棄物論 環境経済論	2 2 2 2 2 2 2 2	2 土壌環境論 2 植物学と自然 2 フラントスケープ計画論 2 地域環境のシステム分析 2 空間情報科学 2 環境制御論 2 原子力とエネルギー 2 水生生物学 2 生物多様性と文化 2 生態系評価とビオトープ施工論 2 緑化植物論 2 環境アセスメント	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	必 必 必 必 必 必	2 生命と多様性の科学 2 フラントスケープの歴史 2 環境のマネジメント	2 2 2		
演習	フィールドスタジオ演習1 フィールドスタジオ演習2 生態学特別演習1 生態学特別演習2 環境計画フィールド演習1 CAD演習1 CAD演習2				1 1 2 2 2 2 2	2 環境理工学演習1 2 環境理工学演習2 2 環境資源活用演習 2 緑化施工演習 2 環境計画フィールド演習2 1 GIS演習1 1 GIS演習2	2 2 2 2 2 2 2	必 必	2 地球環境演習	2			
	実験				物理学実験 化学実験	2 2	2 生物学実験 2 地学実験	2 2					
卒業研究	卒業研究								必	2 卒業研究	必	4	
	キャリア関連科目				入門ゼミ1 入門ゼミ2 環境資格対策1 環境資格対策2	1 1 1 1	1 キャリアデザイン1 1 キャリアデザイン2	1 1	必 必	2 プレ卒研 2 特別演習1 2 特別演習2	1 1		
小計					85	小計	94	4年以上在学	小計	50	小計	12	

卒業要件単位として認めない
但し、留学生の日本語は除く

大阪産業大学
〒167工学部
修学規程第2条
第2項第3号に
定める区分「ロ」
の1「ロ」の2の
者
72単位以上

大阪産業大学
〒167工学部
修学規程第2条
第2項第3号に
定める区分「ロ」
の1「ロ」の2の
者
72単位以上

学士(理工学)

＜編入学 地域生態系コースの履修モデル＞

は、履修推奨科目を示す。

区分	科目・単位				卒業要件単位									
	1年次開講	2年次開講	3年次開講	4年次開講										
フィールド教育科目	フィールドプラクティス フィールドプラクティス2	2 2			卒業要件単位として認めない 但し、留学生の日本語は除く									
	フィールド関連 教育科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン 哲学	2 2 2 2 2	2 環境問題へのアプローチ		2								
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	心理学 社会思想史 日本の社会と文化1 日本の社会と文化2	2 2 2 2	選必修(留学) 選必修(留学)	2 2 2 2								
		社会科学	日本国憲法 経済学 地理学	2 2 2										
			自然科学	数学の基礎 物理の基礎 化学の基礎 生物の基礎	2 2 2 2									
		学際領域	時事問題 倫理学(工業倫理含む)	2 2										
			科学技術史	2										
		日本文化	日本事情1 日本事情2	2 2	必(留学) 必(留学)	2 2								
	人間教育		教育哲学 教育心理学	2 2	2 遠徳教育の理論と方法 2 人権教育 2 生涯学習論	2 2 2								
	言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	1 1 1 1	1 英語総合(上級)1 1 英語総合(上級)2 1 TOEIC上級(Listening)1 1 TOEIC上級(Listening)2 1 英語(Reading&Writing)3 1 英語(Reading&Writing)4 1 TOEIC上級(Reading)1 1 TOEIC上級(Reading)2 1 英語海外研修	1 1 1 1 1 1 1 1 2								
			初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語) 初修外国語入門1(フランス語) 初修外国語初級1(中国語) 初修外国語入門2(ドイツ語) 初修外国語入門2(フランス語) 初修外国語初級2(中国語)	1 1 1 1 1 1	1 初修外国語初級1(ドイツ語) 1 初修外国語初級1(フランス語) 1 初修外国語初級1(中国語) 1 初修外国語初級2(ドイツ語) 1 初修外国語初級2(フランス語) 1 初修外国語初級2(中国語)	1 1 1 1 1 1							
				日本語	日本語読解1 日本語読解2 日本語作文1 日本語作文2	1 1 1 1	1 上級日本語読解1 1 上級日本語読解2 1 上級日本語作文1 1 上級日本語作文2	1 1 1 1	必(留学) 必(留学) 必(留学) 必(留学)	1 1 1 1				
					身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	1 2							
		専門教育科目	基盤科目	環境学概論 データ分析入門1 データ分析入門2 情報機器の操作1 情報機器の操作2	2 2 2 2 2	2 コンピュータグラフィックス 2 Webデザイン/プレゼンテーション 2 物理学概論 2 化学概論 2 生物学概論 2 地学概論 2 環境と物理学 2 環境と化学 2 生態学 2 宇宙科学と人類 2 環境のための分析化学 2 水環境工学 2 社会調査の基礎 2 環境まちづくり論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 大気環境学 2 統計解析の基礎 2 統計解析の応用	2 2 2					
				発展科目	社会調査の手法 総合管理とバイオープ 緑の環境工学 地域コミュニティ論 環境政策論 花と緑の計画論 都市・交通計画論 産業論 環境経済論 環境アセスメント 環境リスクマネジメント	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 土壌環境論 2 樹生学と自然 2 ランドスケープ計画論 2 地域環境のシステム分析 2 空間情報科学 2 環境制御論 2 原子力とエネルギー 2 水生生物学 2 生物多様性と文化 2 生態系評価とバイオープ施工論 2 緑化植物論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 生命と多様性の科学 2 ランドスケープの歴史 2 環境のマネジメント	2 2 2				
					演習	フィールドスタジオ演習1 フィールドスタジオ演習2 生態学特別演習1 生態学特別演習2 環境計画フィールド演習1 CAD演習1 CAD演習2	2 2 2 2 2 2 2	2 環境理工学演習1 2 環境理工学演習2 2 生物資源活用演習 2 緑化施工演習 2 環境計画フィールド演習2 2 環境計画フィールド演習2 1 GIS演習1 1 GIS演習2	2 2 2 2 2 2 2	2 地球環境演習	2			
						実験	物理学実験 化学実験	2 2	2 生物学実験 2 地学実験	2 2				
	卒業研究						卒業研究	2	2 プレ卒研 2 卒業研究	2 2	2 必			
実践教育科目	キャリア関連科目					入門ゼミ1 入門ゼミ2 環境資格対策1 環境資格対策2	1 1 1 1	1 キャリアデザイン1 1 キャリアデザイン2	1 1	2 特別演習1 2 特別演習2	1 1		6単位以上	
					小計	85	小計	94	4年以上在学	小計	50	小計	12	

<編入学 環境緑化コースの履修モデル>

は、履修推奨科目を示す。

区分	科目・単位				卒業要件単位			
	1年次開講	2年次開講	3年次開講	4年次開講				
フィールド教育科目	フィールド プラクティス	フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2	2 2					
	フィールド関連 教養科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン	2 2 2 2	環境問題へのアプローチ	2			
総合教育科目	人文科学	社会学 心理学 社会思想史 日本の社会と文化1 日本の社会と文化2	2 2 2 2 2					
		社会科学	日本国憲法 経済学 地理学	2 2 2				
	自然科学	数学の基礎 物理の基礎 化学の基礎 生物の基礎	2 2 2 2					
		学際領域	隣事問題 倫理学(工業倫理含む) 科学技術史	2 2 2				
	日本文化	日本事情1 日本事情2	2 2					
		人間教育	教育哲学 教育心理学	2 2	道徳教育の理論と方法 入権教育 生涯学習論	2 2 2		
	言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	1 1 1 1	英語(Listening&Speaking)3 英語(Listening&Speaking)4 TOEIC上級(Listening)1 TOEIC上級(Listening)2 英語(Reading&Writing)3 英語(Reading&Writing)4 TOEIC上級(Reading)1 TOEIC上級(Reading)2 英語海外研修	1 1 1 1 1 1 1 1 2		
			英語総合(上級)1 英語総合(上級)2	1 1				
		初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語) 初修外国語入門1(フランス語) 初修外国語入門1(中国語) 初修外国語入門2(ドイツ語) 初修外国語入門2(フランス語) 初修外国語入門2(中国語)	1 1 1 1 1 1	初修外国語初級1(ドイツ語) 初修外国語初級1(フランス語) 初修外国語初級1(中国語) 初修外国語初級2(ドイツ語) 初修外国語初級2(フランス語) 初修外国語初級2(中国語)	1 1 1 1 1 1		
			日本語	日本語読解1 日本語読解2 日本語作文1 日本語作文2	必(留学) 必(留学) 必(留学) 必(留学)	上級日本語読解1 上級日本語読解2 上級日本語作文1 上級日本語作文2	必(留学) 必(留学) 必(留学) 必(留学)	
身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	1 2						
専門教育科目	基礎科目	環境学概論 データ分析入門1 データ分析入門2 情報機器の操作1 情報機器の操作2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2			
		発展科目	環境学概論 地球工学 地球コミュニティ論 環境政策論 花と緑の計画論 都市・交通計画論 商業物論 環境経済論	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	
			演習	フィールドスタジオ演習1 フィールドスタジオ演習2 生態学特別演習1 生態学特別演習2 環境計画フィールド演習1 CAD演習1 CAD演習2	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2
				実験	物理学実験 化学実験	2 2	2 2	2 2
			卒業研究	卒業研究	2	2	2	
				卒業研究	2	2	2	
			実践教育科目	キャリア関連科目	入門ゼミ1 入門ゼミ2 環境資格対策1 環境資格対策2	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1
					キャリアデザイン1 キャリアデザイン2	1 1	1 1	1 1
			小計		85	94	50	12
			4年以上在学					

卒業要件単位として認めない
但し、留学生の
日本語は除く

大阪産業大学
元化工学部
修学規程第2条
第2項第3号に
定める入学区
分「イ」の者
62単位以上

大阪産業大学
元化工学部
修学規程第2条
第2項第3号に
定める区分「ロ
の1」「ロ2」の
者
72単位以上

学生(理工学)

必修科目
10単位
選択必修科目
4単位以上

<編入学 環境計画コースの履修モデル>

は、履修推奨科目を示す。

区分	科目・単位				卒業要件単位		
	1年次開講	2年次開講	3年次開講	4年次開講			
フィールド教育科目	フィールドプラクティス	フィールドプラクティス1 フィールドプラクティス2					
	フィールド関連 教育科目	環境技術入門 自然と人の共生 環境緑化入門 持続可能な社会のデザイン 哲学	2 2 2 2 2	2 2 2 2			
総合教育科目	教養教育科目	人文科学	心理学 社会思想史 日本の社会と文化1 日本の社会と文化2	2 2 2 2			
		社会科学	日本国憲法 経済学 地理学	2 2 2			
		自然科学	数学の基礎 物理の基礎 化学の基礎 生物の基礎	2 2 2 2			
		学際領域	時事問題 倫理学(工業倫理含む) 科学技術史	2 2 2			
	日本文化	日本事情1 日本事情2	2 2				
	人間教育	教育哲学 教育心理学	2 2	2 2			
	言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1 英語(Listening&Speaking)2 英語(Reading&Writing)1 英語(Reading&Writing)2	1 1 1 1	1 1 1 1		
		初修外国語	初修外国語入門1(ドイツ語) 初修外国語入門1(フランス語) 初修外国語入門1(中国語) 初修外国語入門2(ドイツ語) 初修外国語入門2(フランス語) 初修外国語入門2(中国語)	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		
		日本語	日本語読解1 日本語読解2 日本語作文1 日本語作文2	必(留学) 1 必(留学) 1 必(留学) 1 必(留学) 1	必(留学) 1 必(留学) 1 必(留学) 1 必(留学) 1		
		身体科学科目	スポーツ科学実習 運動科学	1 2			
専門教育科目	基盤科目	環境学概論 データ分析入門1 データ分析入門2 情報機器の操作1 情報機器の操作2	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2			
		発展科目	2コンピュータグラフィックス 2Webデザイン/プレゼンテーション 2物理学概論 2化学概論 2生物学概論 2地学概論 2環境と物理学 2環境と化学 2生態学 2宇宙科学と人類 2環境のための分析化学 2水環境工学 2社会調査の基礎 2環境まちづくり論 2社会調査の手法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
		演習	フィールドスタジオ演習1 フィールドスタジオ演習2 生態学特別演習1 生態学特別演習2 環境計画フィールド演習1 CAD演習1 CAD演習2	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2	
		実験	物理学実験 化学実験	2 2			
	実践教育科目	キャリア関連科目	入門ゼミ1 入門ゼミ2 環境資格対策1 環境資格対策2	1 1 1 1	1 1 1 1		
			卒業研究			必 2 卒業研究 必 4	
			小計	85	94	50	12
			4年以上在学				

卒業要件単位として認めない
但し、留学生の
日本語は除く

大阪産業大学
予次工学部
修学規程第2条
第2項第3号に
定める入学区
分「イ」の者
62単位以上

大阪産業大学
予次工学部
修学規程第2条
第2項第3号に
定める区分「ロ
の1」「ロの2」の
者
72単位以上

学士(理工学)

必修科目
10単位
選択必修科目
4単位以上